

注文書

令和7年度

工事名 第117号

橋梁補修工事（余方線立体橋）

施工場所 名取市 高舘熊野堂 地内

【工事概要】

橋長：L=47.2m

上部工コンクリート補修工 一式

下部工コンクリート補修工 一式

目地部補修工 L=90m

足場工 A=203 掛 m^2

【完成工期】

令和8年3月31日

【添付書類】

- 1 位置図
- 2 特記仕様書
- 3 参考金抜設計書
- 4 参考数量計算書
- 5 図面

橋梁補修工事(余方線立体橋) 位置図



凡例	
施工箇所	

— 特 記 仕 様 書 —

令和7年11月1日以降公告案件から適用

施 工 条 件 明 示 書

工事番号	117	工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		事務所名	名取市役所											
項 目		条 件	内 容		施 工 方 法		備 考										
1 共通仕様書の適用		本工事は、宮城県土木部制定「共通仕様書」を適用するほか、本特記仕様書により施工するものとする。 仕様書の記載内容の優先は、「特記仕様書」「共通特記仕様書」「共通仕様書」の順とする。															
2 主任技術者及び監理技術者(以下、配置技術者という。)の配置																	
(1) 現場施工に着手する日の指定 (配置技術者の配置要件の特例) ※平成25年4月1日以降適用「現場施工の着手日を指定した工事における配置技術者の配置要件の特例について」		●	契約工期初日以降、90日以内に着手 (手持ち工事が完了した場合や、制約条件がない場合等は、期日以前の着手も可能)														
(2) 請負者が着手日を選択出来る工事(フレックス工事)		○	契約工期初日以降、○日以内に着手 土木工事共通特記仕様書第1編1－1－4によること。														
(3) 上記以外		○	請負者は、現場施工に着手する日の指定がない限り、原則として、契約工期初日以降、30日以内に現場施工に着手														
		上記現場施工に着手する日の前日までの期間において、工事準備等を含め工事現場が不稼働であることが明確な場合は、配置技術者の工事現場への専任は要しない。 出納局契約課ホームページ参照のこと。http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/keiyaku/kk50.html															
3 専任特例の適用を受ける技術者の配置																	
		○対象	●対象外	建設業法第26条第3項ただし書の規程の適用を受ける監理技術者(特例監理技術者)の配置。 特例監理技術者を対象とする場合は下記によるものとする													
<p>1 特例監理技術者を配置する場合は以下の(ア)～(サ)の要件を全て満たさなければならない。</p> <p>(ア) 本工事の現場施工に着手する日までに、建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者(以下、「監理技術者補佐」という。)を専任で配置すること。</p> <p>(イ) 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補(令和3年4月1日施行予定)又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有するものであること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。</p> <p>(ウ) 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。</p> <p>(エ) 同一の特例監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に2件までとする。</p> <p>(ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であつて、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの(当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。))については、これら複数の工事を一の工事とみなす。)</p> <p>(オ) 特例監理技術者が兼務できる工事は、本工事を所管する土木事務所(地域事務所)管内及び隣接土木事務所(地域事務所)管内の宮城県内で施行される工事でなければならない。</p> <p>(カ) 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。</p> <p>(キ) 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。</p> <p>(ク) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。</p> <p>(ケ) 専任補助者を配置しない工事であること。</p> <p>(コ) 維持管理業務同士は兼務できない。</p> <p>※24時間体制で応急処理工や緊急巡回等が必要な業務等</p> <p>(サ) 配置技術者の追加専任を必要としないもの。</p> <p>2 本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する場合、配置技術者届出書及び特例監理技術者の配置を予定している場合の確認事項を提出すること。</p> <p>3 本工事において、特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にコリンズ(CORIINS)への登録を行うこと。</p>																	
4 積算基準及び設計単価の適用期日																	
(1) 積算基準及び設計単価の適用について		●ある	○ない	積算基準及び設計単価は令和8年1月の基準及び単価としている。													
(2) 工事請負契約締結後における設計単価の変更		●ある	○ない	<p>本工事は、当初工事請負契約締結後において、契約日を基準日として設計単価の設計変更を行うこととする。</p> <p>なお、設計変更の対象は、資材単価・労務単価及び機械単価等の全ての設計単価とする。</p> <p>ただし、災害に伴う応急仮工事など緊急を要す工事において、積算月と契約月が同月となる場合など、工事請負契約締結後における設計単価の変更が必要ないと判断される場合においては、適用「なし」を選択することも可能とし、その場合は下欄にその理由を記載する。</p> <p>適用「なし」の理由 (例) ・本工事は災害に伴う応急仮工事であり、積算及び契約が同月となる見込みであるため。</p>													
5 工程関係																	
(1) 関連工事による施工時期の調整		●ある	●ない														
(2) 施工時期による制限		●ある	●ない														
(3) 関係機関等との協議の未成立		●ある	○ない	道路使用許可、道路交通法第95条協議		左記協議結果を踏まえ岩沼警察署と協議すること											
(4) 関係機関等との協議結果、特定条件の付加		●ある	●ない														
6 公害対策関係																	
(1) 施工方法、機械施設、作業時間等の制限		●ある	○ない	道路使用許可結果により、作業時間等の条件が付される場合がある。		監督職員と協議を行い施工すること											
7 安全対策関係																	
(1) 交通安全施設等の指定		●ある	●ない														
(2) 占用埋設物との近接工事による 施工方法、作業時間の制限		●ある	●ない														
8 排水工関係																	
(1) 濁水、湧水処理のための特別な対策の必要性		●ある	●ない														
9 建設副産物対策関係(建設発生土)																	
(1) 建設発生土の処理・処分について		<p>本工事の残土は、下記に運搬するものとする。なお、下記により難い場合が生じたときは、監督職員の指示によるものとし、設計変更の対象とする。</p> <table> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">処理・処分する場所</th> <th rowspan="2">処理・処分方法</th> <th rowspan="2">距離</th> <th rowspan="2">制限時間</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>所在地</th> <th></th> </tr> </table>							名称	処理・処分する場所		処理・処分方法	距離	制限時間	備考	所在地	
名称	処理・処分する場所		処理・処分方法	距離	制限時間	備考											
	所在地																
(2) 建設発生土	処理・処分	●ある	●ない														

10 建設副産物対策関係(建設発生土以外の建設副産物)																			
(1) 建設発生土以外の建設副産物の処理・処分について				下記の処理・処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、下記によらない場合は、監督職員と協議すること。また、処理・処分に先立ち処分場等の受入れの可否を確認すること。なお、廃棄物の処理に当たっては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守すること(環境省または廃棄物対策課のHPを参照)。															
				処理・処分する場所		処理・処分方法		距離	制限時間										
				工事現場内及び工事現場間で再利用する場合は、施工管理及び契約方法等について、施工計画打合せ時に監督職員と協議すること。															
(2) 建設発生土以外の建設副産物	処理・処分	コンクリート塊	○ある	●ない				km	時 分 ～ 分										
		アスファルト塊	○ある	●ない				km	時 分 ～ 分										
		建設発生木材	○ある	●ない				km	時 分 ～ 分										
		建設汚泥	○ある	●ない				km	時 分 ～ 分										
		その他	○ある	●ない				km	時 分 ～ 分										
(3) 再生材の利用			○ある	●ない	種類・数量														
11 現場環境改善																			
(1) 現場環境改善費(率計上)について			○ある	●ない	本工事は、現場環境改善費(率計上)を計上している工事である。下表の内容のうち原則として、各計上費目(仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携)ごとに1内容ずつ(ただし、いずれか1費目のみ2内容)の合計5つの内容を選択し、具体的な実施内容、実施期間については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。														
					<table><tr><th>計上費目</th><th>実施する内容(率計上)</th></tr><tr><td>仮設備関係</td><td>1. 用水・電力等の供給設備、 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実 6. 環境負荷の低減</td></tr><tr><td>営繕関係</td><td>1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働宿舍の快適化 3. デザインボックス(交通誘導警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等</td></tr><tr><td>安全関係</td><td>1. 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報器等)</td></tr><tr><td>地域連携</td><td>1. 完成予想図、2. 工法説明図、3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーション)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献</td></tr></table>					計上費目	実施する内容(率計上)	仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備、 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実 6. 環境負荷の低減	営繕関係	1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働宿舍の快適化 3. デザインボックス(交通誘導警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等	安全関係	1. 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報器等)	地域連携	1. 完成予想図、2. 工法説明図、3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーション)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献
計上費目	実施する内容(率計上)																		
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備、 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実 6. 環境負荷の低減																		
営繕関係	1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働宿舍の快適化 3. デザインボックス(交通誘導警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等																		
安全関係	1. 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報器等)																		
地域連携	1. 完成予想図、2. 工法説明図、3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーション)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献																		
(2) 避暑(熱中症対策)・避寒対策費について					避暑(熱中症対策)・避寒対策を実施した場合、その費用を設計変更の対象とする。(共通仮設備の現場環境改善費(積み上げ分)として計上)実施に当たっては、対策内容がわかる資料により発注者と協議すること。費用については、注文書及び請求書、またはそれに代わる書類により協議すること。ただし、設計変更の上限額は、土木部標準積算基準書により算出した現場環境改善費(率計上)の50%とする。 なお、設計変更の対象となる内容は、遮光設備や大型扇風機、製氷機の設置費用など現場の施設や設備に対する対策であり、空調服や経口保水液の購入費用など作業員個人に対する対策は対象外となる。														
(3) 快適トイレの設置費について					受注者が快適トイレを設置する場合、その費用を設計変更の対象とします。(共通仮設備(営繕費)の積み上げ分として計上)実施に当たっては、「快適トイレの設置費用に係る積算基準」(事業管理課HP-各種基準)を参照すること。														
12 品質証明																			
(1) 品質証明書および施工プロセス品質確認チェックリストの対象			○ある	●ない	請負工事費が、1億5千万円以上の工事および発注者が必要と認める工事。 土木工事共通特記仕様書第3編1-1-9および品質証明実施要領によること。														
(2) 施工プロセス品質確認チェックリストの対象			○ある	●ない	上記に該当せず、請負工事費が1億円以上の工事。 土木工事共通特記仕様書第3編1-1-9および品質証明実施要領によること。														
13 標準的な設計図書による発注方式			○ある	●ない	土木工事共通特記仕様書第3編1-1-14によること。														
14 資材関係																			
(1) 生コンクリート			生コンクリートの使用に当たっては、「宮城県生コンクリート品質管理監査会議」が交付する「品質管理監査合格証」を有する工場の製品、又は同等以上の品質管理を行っていることが認められる工場の製品を使用すること。																
(2) 購入土			購入土を使用する場合は、材料承諾時に「採石法第33条による採取計画認可書の写し」、又は「砂利採取法第16条の採取計画認可書の写し」を提出すること。																
(3) 宮城県グリーン製品の利用			必須	1. 植生基盤材等、視線誘導標、型枠用合板は、原則として宮城県グリーン製品を用いること。															
「宮城県グリーン製品」利用推進指針によること。「宮城県グリーン製品」を使用した場合は、請負者は循環型社会推進課HPより「チェックリスト」をダウンロードし、使用材料や数量等を入力後、工事完了後に監督職員に提出(電子メール)すること。			○ある	●ない	2. 盛土材、埋め戻し材														
			○ある	●ない	3. その他()														
(4) 県内産製品の使用			○ある	●ない	本工事は、「県土木部発注工事における県内産製品優先使用の試行要領」の対象工事である。 工事の施工にあたっては、試行要領に基づき適切に実施すること。 事業管理課ホームページ参照 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/kensanzai.html														
(5) 現場吹付法枠工			吹付モルタルにおける圧縮強度の規格値は、18N/mm2以上とする。																
15 設計変更の手続き																			
(1) 設計変更の手続きについて			設計変更については、工事請負契約書第19条～第26条及び共通仕様書第1編1-1-1-14～1-1-1-16に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン」(宮城県土木部)によることとする。																
			詳細については、以下のホームページ「設計変更ガイドライン【土木工事、建設関連業務】」を参考とすること。 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/henkou-guideline.html トップページ>しごと・産業>土木・建築・不動産業>建設業>設計変更ガイドライン【土木工事、建設関連業務】																
16 その他																			
(1) 舗装の下請制限について			○ある	●ない	土木工事共通特記仕様書第1編1-1-3によること。														
(2) 「ダンブ土砂運搬等下請を行う工事における工事費内訳調査」の対象の有無			○ある	●ない	本工事は「ダンブ土砂運搬等下請を行う工事における工事費内訳調査」の対象工事であり、請負者は、調査票等に必要事項を正確に記入し発注者に提出する他、ダンブ土砂運搬等下請負契約に関する関係書類を提出すること。 請負者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、請負者は、当該工事の受注者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む)も同様の義務を負う旨を周知すること。														
(3) 三者会議の対象の有無			○ある	●ない	本工事は、工事着手前等に当該工事の発注者、施工者、詳細設計等を担当した設計者が参加して、設計図書と現場の整合性の確認及び設計意図の伝達等を行う「三者会議」を設置する対象工事である。 土木工事共通特記仕様書第3編1-1-5によること。														

(4)貸与資料の有無	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	本仕様書によるもののほか、工事施工に関して必要な資料として工事契約後下記の資料を貸与する。 貸与資料（設計図面、数量計算書、設計成果ほか）
(5)発注者支援（工事監督支援業務）対象の有無	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	工事監督支援業務の受注者が現場監督支援する場合、工事請負者に対し「工事打合せ簿」により担当技術者（所属会社等名・氏名）の通知を行うこと。
(6)法定外の労災保険の付保について	本工事では、法定外の労災保険加入にかかる保険料を予定価格に反映しているため、本工事において受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。なお、加入後受注者は、工事請負契約書第62条に基づき、証券又はこれに代わるものを直ちに発注者に提示すること。		
(7)熱中症対策に資する現場管理費補正の試行の有無	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	本工事は熱中症対策に資する現場管理費率の補正の試行対象工事である。本運用による設計変更を希望する場合は、別途定める「熱中症対策に資する現場管理費補正の試行要領」に基づき、発注者に協議すること。
(8)盛土規制法について	本工事において、盛土規制法の規制対象となる行為を行う場合は、事前に手続き方法等について発注者と協議すること。 詳細については、以下のホームページを参考とすること。 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kentaku/morido.html		

働き方改革・生産性向上に関する事項

項 目	条 件		内 容		
17 総合評価落札方式における「ICT施工・3次元化等の活用提案」の適用の有無					
(1)「ICT施工・3次元化等の活用提案」の適用工事	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	1. 対象工事の場合、活用する技術については、「ICT施工・3次元化等の活用提案 工事計画書」に基づき選択すること。 2. ICT施工・3次元化等の活用提案の適用の有無に係わらず、「ICT施工・3次元化等の活用提案 工事計画書」に記載の技術は、施工計画・技術提案等(いわゆる作文)の評価対象外とする。(「簡易型(施工計画型)」,「標準型」,「高度型」の場合) なお、「ICT施工・3次元化等の活用提案」の対象外工事の場合も、同様の取扱いとする。		
(2)実施された技術についての費用計上(設計変更)	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	設計変更の積算手法については、総合評価落札方式の手引きのとおりとする。なお、(1)が対象外の場合は、当該項目も対象外となる。		
18 業務効率化					
(1)工事情報共有システムの活用	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	本工事は工事情報共有システムの活用対象工事であり、請負者は工事着手時に別途定める「工事情報共有システム事前協議チェックシート」により、必要事項について監督職員と協議を行うこと。実施にあたっては「土木工事における工事情報共有システムの実施要領」及び「土木工事における工事情報共有システムの活用ガイドライン」に基づき行うこと。		
(2)工事書類の簡素化の試行について	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし	本工事は、工事書類の簡素化を目的とした試行対象工事である。実施にあたっては「宮城県土木部における工事書類簡素化の試行要領」に基づき行うこと。		
(3)ウィークリースタンス等の推進	本工事は、受発注者協力のもと、建設業の魅力創出を図ることを目的にウィークリースタンス等の推進を図ることとし、「ウィークリースタンス等実施要領」に基づき、取組内容を受発注者間で協議及び共有し、工事を進めていくこととする。 詳細については、宮城県土木部事業管理課のホームページを参照すること。(http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/weekly.html)				
19 週休2日モデル工事の適用の有無					
(1)週休2日モデル工事	<input checked="" type="radio"/> 対象	<input type="radio"/> 実施困難工事	1. 週休2日対象工事の場合は、名取市「週休2日モデル工事」実施要領に基づき、行うこととする。 なお、週休2日モデル工事の種別及び区分については、下記(2)。(3)のとおりとする。 2. 改正労働基準法(平成30年6月成立)による罰則付きの時間外労働規制が建設業に適用されたことを踏まえ、週休2日の確保を目指し、「週休2日モデル工事」での発注を原則とする。ただし、応急復旧工事など緊急工事の場合は、例外的に週休2日対象工事としないことも可能とする。その場合は「実施困難工事」として、下欄にその理由を記載する。 <table><tr><td>実施困難工事の理由</td><td>(例) ・応急復旧工事のため早期に工事を完成させる必要があり、週休2日の確保が困難なため</td></tr></table>	実施困難工事の理由	(例) ・応急復旧工事のため早期に工事を完成させる必要があり、週休2日の確保が困難なため
実施困難工事の理由	(例) ・応急復旧工事のため早期に工事を完成させる必要があり、週休2日の確保が困難なため				
(2)週休2日モデル工事の種別	<input checked="" type="radio"/> 現場閉所型	<input type="radio"/> 交替制	現場閉所型:巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて、1日を通して現場や現場事務所を閉所する。 交 替 制:現場閉所を行うことが困難な工事について、技術者及び技能労働者が交替しながら休日確保の取組を行う。		
(3)週休2日モデル工事の区分	当初発注においては、補正係数なしで積算しており、「月単位の週休2日」、「完全週休2日」に取り組む場合は、工事着手前に受発注者間で協議の上、週休2日の区分を決定することとする。 協議により、「月単位の週休2日」又は「完全週休2日」に取り組み、達成した場合は、精算変更時に達成した区分に応じた週休2日の補正係数に変更する。				
20 女性活躍推進モデル工事の適用の有無					
(1)女性活躍推進モデル工事	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	実施に当たっては、宮城県土木部「女性活躍推進モデル工事」実施要領に基づき行うものとする。 実施要領は、宮城県ホームページ(https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/)で確認のこと。		
21 下請承認事務簡素化モデル工事の適用の有無					
(1)下請承認事務簡素化モデル工事	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	実施に当たっては、発注者から工事打合せ簿により、「下請承認事務簡素化モデル工事」である旨を別途指示するものとする。		

東日本大震災に伴う特例制度

項 目	条 件	内 容	施 行 方 法	備 考
22 被災地以外からの労働者確保に要する間接費の設計変更の運用				
(1) 労働者確保に関する積算方法の試行工事	〇	●い 1 本工事は、「共通仮設費(率分)のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用(以下「実績変更対象間接費」という。)について、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、宮城県土木部においては土木工事標準積算基準(宮城県土木部)に基づく金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する「労働者確保に関する積算方法の工事」である。 営繕費:労働者送迎費、宿泊費、借上費 労務管理費:募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用 2 本工事の予定価格の算出の基礎とした設計額(宮城県土木部においては、土木工事標準積算基準に基づき算出した額)における実績変更対象間接費の割合は次のとおりである。 1) 共通仮設費(率分)に占める実績変更対象間接費(労働者送迎費、宿泊費、借上費)の割合: 9.19% 2) 現場管理費に占める実績変更対象間接費(募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用)の割合: 1.24% 3 受注者は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて設計変更を希望する場合は、実績変更対象間接費に係る費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書(様式1)」及び実績変更対象間接費について実際に支払った全ての証明書類(領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。)を監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。 4 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。 5 発注者は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者が実績変更対象間接費について実際に支払った額のうち証明書類において確認された費用から、宮城県土木部においては土木工事標準積算基準(宮城県土木部)に基づき算出した額における実績変更対象間接費を差し引いた費用を加算して算出する。なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても、提出された証明書類をもって設計変更を行うものとする。 6 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び入札参加資格制限等の措置を行う場合がある。 7 受注者は、実績変更対象間接費にかかる設計変更について疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。		
(2) 労働者宿舍設置に関する積算方法の試行工事	〇	●い 本工事は、「労働者宿舍設置に関する試行要領」(以下試行要領)の対象工事である。 労働者宿舍の設置を希望する場合については、「試行要領」に基づき監督職員と事前に協議すること。		
23 遠隔地からの建設資材調達に係る設計変更				
(1) 遠隔地からの建設資材調達に係る設計変更	〇	●い 下記の建設資材は、通常地域内から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当該調達地域以外から調達せざるを得ない場合には、事前に監督職員と協議するものとする。また、購入費及び輸送費に要した費用については、証明書類(契約書及び納品書等)を添付するものとする。なお、添付する証明書類(契約書及び納品書等)は原本を提示(写しの提出)とし、受注者名、納品者名、使用資材名、規格・形状、使用(納品)日、使用(納品)数量等が記載されている物を監督員に提出し、その費用について設計変更することとする。 購入費の対象は、生コンクリート・アスファルト合材・石材等(山砂、碎石、捨石、被覆石等)とする。 輸送費の対象は、仮設材(鋼矢板等)とする。	受注者は、購入費及び輸送費を変更したい場合は、「工事打合せ簿」に次の事項を記載し発注者に提出し協議するものとする。 1 地域内及び基地に、建設資材がないことを証明する資料(打合せメモ等) 2 遠隔地から購入及び輸送する建設資材の名称・規格及び製造・生産工場の名称(使用材料の建設資材名及び規格・形状等の証明資料「品質証明」) 3 遠隔地から建設資材を購入及び輸送する理由 4 製造・生産工場を選定した理由 5 見積もり書 6 その他、必要と思われる事項	
24 施工箇所が点在する工事の間接費の積算				
(1) 施工箇所が点在する工事積算方法の試行の対象工事	〇	●い 本工事は、施工箇所が点在する工事であり、共通仮設費及び現場管理費について標準積算と施工実態に乖離が考えられるため、「○○地区(施工箇所○○、○○)、△△地区(施工箇所○○)、□□地区(施工箇所○○)(以下、対象地区という)」ごとに共通仮設費及び現場管理費を算出する「施工箇所が点在する工事積算方法の試行」の対象工事である。	本工事における共通仮設費の金額は、対象地区毎に算出した共通仮設費を合計した金額とする。また、現場管理費の金額も同様に、対象地区毎に算出した現場管理費を合計した金額とする。なお、共通仮設費率及び現場管理費率の補正(大都市、施工地域等)については、対象地区毎に設定する。	
25 その他				
(1) 土砂等建設資材を供給元で引取する場合の積算の取扱い	〇	●い ・本工事の施工において、調達(購入)する予定の○○の設計単価は、現場持込価格(単価)としている。ただし、契約後、施工計画に基づき、○○の調達条件について異なる場合は、監督職員と協議すること。 ・資材搬入において、標準作業以外の作業(現場外の仮置き等)が生じる場合は、監督職員と協議すること。		
(2) 東日本大震災の復旧・復興事業等における積算方法等に関する試行について	●	○い 間接工事費(共通仮設費及び現場管理費)について、工事量の増大による資材やダンプトラック等の不足による作業効率の低下等により現場の実支出が増大し、積算基準による積算と乖離が生じていることが確認されたため、積算基準書等により各工種区分に従って対象額ごとに求めた共通仮設費率及び現場管理費率に、それぞれ以下の補正係数を乗じている。 補正係数 共通仮設費:1.3 現場管理費:1.1		

特記事項

1 追加事項1			
(1) 契約終了後の提出物	<p>下記のとおりとする。</p> <p>1) 施工計画書</p> <p>2) 設計照査結果</p> <p>これらについて、契約終了後速やかに提出を行うこと。</p>	監督職員と協議の上提出すること。	
(2) 事前測量	<p>契約後、早急に事前測量を実施し、成果を提出すること。</p> <p>1) 施工に先立ち事前測量を実施し監督職員の確認を得ること。なお、設計内容と異なる場合は、速やかに監督職員と協議すること。</p> <p>2) 事前測量の結果を、横断図にして提出のこと。紙ベース(仕様書と同じ計画線も入れる)による提出、及びCD-R等にSFC形式で保存したものを各1部提出すること。</p>		
(3) 設計図書と現地の相違点	着手前調査において、本設計図書との相違点が確認された場合は、直ちに監督職員に報告するとともに、対応を検討し書面で協議すること。		
(4) 詳細図・施工図	構造物等の変更・追加による図面は監督職員と協議のうえ請負業者が作成すること。変更設計に使用できる図面で数量も計上すること。なお、これに伴う費用は受注者の負担とする。		
(5) 竣工時提出資料	<p>竣工時工事成果については、宮城県共通仕様書等に記載されているところであるが、下記のものについては紙面および電子データで提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来形図(設計最終図面の設計数値に出来形数値を赤書きしたもの) ・設計最終図面(最終設計変更の数値を記載した図面) ・設計最終数量計算書 		
(6) その他	<p>1) 工事関係者(作業員含む)は、工事目的を十分に理解することに努め、監督員や現場責任者または設計図書のみに頼らず、常に疑問をもって工事の施工に取りかかることとし、各自が疑問点を解決しやすい職場環境を形成するとともに臨機応変の対応ができるよう現場教育を徹底すること。</p> <p>2) 本工事は標準積算基準により積算している。現場条件等により標準積算基準での施工が困難な場合は、監督職員と協議すること。</p> <p>3) その他、疑義のある場合は、事前に監督職員と協議すること。本設計仕様等で疑義が生じた場合は直ちに監督職員と協議するものとし、打合せ・協議・承諾・指示等の内容は全て工事打合せ簿等の書面で行うこと。</p>		
(7) 交通誘導員について	交通誘導警備員については、起終点部に各1名計2名の配置を想定し、総計36名を計上している。現地の交通状況等により配置人員の変更が必要となる場合は監督員と協議すること		
(8) 共通仕様書、マニュアルについて	<p>下記の内容について必ず確認すること。</p> <p>1) 共通仕様書 : 令和 7年10月 1日以降適用</p> <p>2) 土木設計マニュアル : 平成21年 7月 1日以降適用</p>		
2 追加事項2			
(1) 繰越について	・当工事は次年度への繰越を予定しており、繰越承認後工期変更を行う。		

設計内訳書（本01）

工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)				事業区分 工事区分	道路維持・修繕 橋梁保全工事	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
橋梁保全工事							
		式	1				
橋梁補修工							
		式	1				
ひび割れ補修工							
		式	1				
低圧注入工法 上部工	1構造物当り補修延べ延長:25m未満,材料種類:注入材(エポキシ樹脂系)						単 1号
		構造物	1				
充てん工法 上部工	1構造物当り補修延べ延長:20m未満,材料種類:充てん材(エポキシ樹脂系)						単 2号
		構造物	1				
ケレン除去工 上部工	サンダーケレン						単 3号
		m2	3				
断面修復工							
		式	1				
左官工法 上部工	1構造物当り修復延べ体積:0.23m3,材料種類:ポリマーセメントモルタル,鉄筋ガン・鉄筋防錆処理:無し						単 4号
		構造物	1				
ケレン除去工 下部工	サンダーケレン						単 5号
		m2	0.5				
左官工法 下部工	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満,材料種類:ポリマーセメントモルタル,鉄筋ガン・鉄筋防錆処理:無し						単 6号
		構造物	1				
左官工法 下部工	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満,材料種類:ポリマーセメントモルタル,鉄筋ガン・鉄筋防錆処理:有り						単 7号
		構造物	1				
表面含侵工							
		式	1				
表面含侵工	材料:浸透性エチルシラン撥水剤						内 1号
		式	1				

宮城県

設計内訳書（本01）

工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)				事業区分 工事区分	道路維持・修繕 橋梁保全工事	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
目地部補修工							
		式	1				
既設目地撤去工	作業区分:人力はつり						単 8号
		m	90				
目地補修工	材料:高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材						単 9号
		m	90				
足場工							
		式	1				
足場工	枠組足場						単 10号
		掛m2	203				
道路維持							
		式	1				
仮設工							
		式	1				
交通管理工							
		式	1				
交通誘導警備員							単 11号
		人日					
直接工事費							
		式	1				
共通仮設							
		式	1				
共通仮設費（率計上）							
		式	1				
純工事費							
		式	1				

宮城県

設計内訳書（本01）

工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路維持
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
現場管理費		式	1				
工事原価		式	1				
一般管理費等		式	1				
工事価格		式	1				
消費税額及び地方消費税額		式	1				
工事費計		式	1				

宮城県

一式当り内訳書

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

内 1号	表面含侵工	材料:浸透性エチルシラン撥水剤					
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
材料費 浸透性エチルシラン撥水剤		kg	3				
土木一般世話役		人					
特殊作業員		人					
普通作業員		人					
諸雑費		式	1				
合計							

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 1号	低圧注入工法	1構造物当り補修延べ延長:25m未満, 材料種類:注入材(エポキシ樹脂系)	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ひび割れ補修工(低圧注入工法)		25m未満, 0.02kg, 0.25kg, 11個	構造物	1			単 12号	
合計								
単価							円/構造物	

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 2号	充てん工法	1構造物当り補修延べ延長:20m未満, 材料種類:充てん材(エポキシ樹脂系)	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ひび割れ補修工(充てん工法)		20m未満, 0.669kg	構造物	1			単 13号	
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 3号	ケレン除去工	サンダーケレン	単位	m2	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
下地処理工			m2	1			単 14号	
合計								
単価							円/m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 4号	左官工法	1構造物当り修復延べ体積:0.23m3, 材料種類:ポリマーセメントモルタル, 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理:無し	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工(左官工法)		無し, 0.1m3以上, 0.23m3	構造物	1			単 15号	
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 5号	ケレン除去工	サンダーケレン	単位	m2	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
下地処理工			m2	1			単 14号	
合計								
単価							円/m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 6号	左官工法	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満, 材料種類:ポリマーセメントモルタル, 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理:無し	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工(左官工法)		無し, 0.1m3未満, 0.01m3	構造物	1			単 16号	
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 7号	左官工法	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満, 材料種類:ポリマーセメントモルタル, 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理:有り	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工(左官工法)		有り, 0.1m3未満, 0.02m3	構造物	1			単 17号	
合計								
単価							円/構造物	

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 8号	既設目地撤去工	作業区分:人力はつり	単位	m	単位数量	100	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人					
普通作業員			人					
合計								
単価							円/■	

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 9号	目地補修工	材料:高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材	単位	m	単位数量	233.1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
材料費 高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材			箱	20				
材料費 プライマー			缶	13				
諸雑費			式	1				
土木一般世話役			人					
特殊作業員			人					
普通作業員			人					
合計								
単価							円/m	

宮城県

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 10号	足場工	枠組足場	単位	掛m2	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
足場工		手摺先行型枠組足場, 必要, 標準(1.0)	掛m2	1			単 18号	
合計								
単価							円/掛m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 11号	交通誘導警備員		単位	人日	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員B			人日				単 19号	
合計								
単価							円/人日	

宮城県

2 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 12号	ひび割れ補修工(低圧注入工法)	25m未満, 0.02kg, 0.25kg, 11個	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
注入材(エポキシ樹脂系)			kg	0.02				
シーラ材								
シーラ材(エポキシ樹脂系)			kg	0.343				
材料費								
注入器具			個	11				
諸雑費(率+まるめ)								
			式	1				
合計								
単価								円/構造物

宮城県

2 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 13号	ひび割れ補修工(充てん工法)	20m未満, 0.669kg	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人					
特殊作業員			人					
普通作業員			人					
材料費 充填材(エポキシ樹脂系)			kg	0.803				
諸雑費(率+まるめ)			式	1				
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

宮城県

單價使用年月	2026.01
步掛適用年月	2026.01
勞務調整係數	1.000-00000 0.0 0

宮城県

2 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 16号	断面修復工(左官工法)	無し, 0.1m3未満, 0.01m3	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人					
特殊作業員			人					
普通作業員			人					
材料費 ポリマーセメントモルタル			m3	0.012				
諸雑費(率+まるめ)			式	1				
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

2 次単価表

単価使用年月	2026.01
歩掛適用年月	2026.01
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 17号	断面修復工(左官工法)	有り, 0.1m3未満, 0.02m3	単位	構造物	単位数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人					
特殊作業員			人					
普通作業員			人					
材料費 ポリマーセメントモルタル			m3	0.024				
諸雑費(率+まるめ)			式	1				
合計								
単価							円/構造物	

宮城県

2 次単価表

						単価使用年月	2026. 01
						歩掛適用年月	2026. 01
						労務調整係数	1. 000-00000 0. 0 0
単 18号	足場工	手摺先行型枠組足場, 必要, 標準(1. 0)	単位	掛m2	単位数量	100	単価
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役			人				
とび工			人				
普通作業員			人				
ラフテレンシクレン[油圧伸縮ｼﾌﾞ型] 25t吊			日				
諸雑費(率+まるめ)			式	1			
合計							
単価							円／掛m2

宮城県

2 次単価表

						単価使用年月	2026. 01
						歩掛適用年月	2026. 01
						労務調整係数	1. 000-00000 0. 0 0
単 19号	交通誘導警備員B		単位	人日	単位数量	1	単価
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員B			人				
合計							
単価							円／人日

宮城県

積算参考資料（間接費補正一覧）

単 価 使 用 年 月	2026年1月		
歩 掛 適 用 年 月	2026年1月		
基 準 適 用 年 月	2026年1月	被 災 地 機 械 損 料 補 正	対象機械なし
共通仮設費（率計上）			
主 た る 工 種	12:橋梁保全工事		
施 工 地 域 等 補 正	一般交通影響有り（2）－1		1.4
除 雪 工 事 補 正	未使用		1.00
I C T 施 工 補 正	補正なし		1.0
週 休 2 日 補 正	補正なし		1.00
復 興 係 数 補 正	あり		1.3

宮城県

積算参考資料（間接費補正一覧）

現場管理費		
施 工 地 域 等 補 正	一般交通影響有り（2）－1	1.2
工 期 日 数（熱中症補正）	0日間	
真 夏 日 日 数	0日間	
補 正 係 数	補正なし	0.00
熱 中 症 補 正	自動設定	0.00%
工 期 日 数	0日間	
冬 期 日 数	0日間	
積 雪 寒 冷 地 区 分	補正なし	0.00%
施 工 時 期 補 正	自動設定	0.00%
緊 急 工 事 補 正	補正なし	0.00%
砂 防・地 滑 り 補 正	補正なし	0.00%
I C T 施 工 補 正	補正なし	1.0
週 休 2 日 補 正	補正なし	1.00
復 興 係 数 補 正	あり	1.1
一般管理費		
前払金支出割合による補正	補正を行わない	1.00
財団法人等による補正	補正を行わない	1.00
契約保証に係る補正率	金銭的保証	0.04%

宮城県

1. 数量総括表

数 量 総 括 表

工事区分	工種	種別	細別	規格等	単位	数量	設計 数量	備 考
橋梁補修								
	上部工コンクリート補修工							
		低圧注入工法			構造物	1.0	1	
		ひびわれ注入工	ひびわれ延長		m	2.6		
			注入材	エポキシ樹脂系	kg	0.02		
			シール材	エポキシ樹脂系	kg	0.25		
			注入器具	低圧注入用	個	11		
		充てん工法			構造物	1.0	1	
		ひびわれ充填工	ひびわれ延長		m	3.4		
			プライマー塗布		kg	0.02		
			充填材	エポキシ樹脂系	kg	0.7		
		ケレン除去工	サンダーケレン		m2	3.80	3	
		左官工法			構造物	1.0	1	
		断面修復工 (左官工-防錆処理なし)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.23		
			プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	1.17		
	下部工コンクリート補修工							
		ケレン除去工	サンダーケレン		m2	0.51	0.5	
		左官工法			構造物	1.0	1	
		断面修復工 (左官工-防錆処理なし)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.01		
			プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	0.07		
		左官工法			構造物	1.0	1	
		断面修復工 (左官工-防錆処理あり)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.02		
			プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	0.06		
		表面含浸工			式	1.0	1	
		表面含浸工	下地処理		m2	0.4		
			含浸工	シラン系・ケイ酸塩系ハイブリッド型表面含浸材	m2	0.4		
	目地部補修工							
		既設目地撤去工	撤去延長	B=15mm, t=25mm	m	90.7	90	
		目地補修工	バックアップ材		m	90.7		
					ℓ	13.6		
			シール材	高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材	m	90.7	90	
	足場工							
		足場工	枠組足場		掛m2	203.0	203	

2. 上部工コンクリート補修工

2.1 数量集計表

レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格等	単位	数量	備考
ひびわれ注入工	ひびわれ延長		m	2.6	
	注入材	エポキシ樹脂系	kg	0.02	
	シーリング材	エポキシ樹脂系	kg	0.25	
	注入器具	低圧注入用	個	11	
ひびわれ充填工	ひびわれ延長		m	3.4	
	プライマー塗布		kg	0.02	
	充填材	エポキシ樹脂系	kg	0.7	
ケレン除去工	サンダーケレン		m ²	3.8	
断面修復工 (左官工-防錆処理なし)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.23	
	プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	1.17	

2.2 数量計算

上部工

(1) ひびわれ注土工

1) ひびわれ延長

$$L = 2.600 \quad = \quad 2.600 \quad \text{m}$$

2) 注入材

$$\text{平均ひびわれ幅} = 0.20 \quad \text{mm}$$

$$\text{ひびわれ深さ} = 0.20 \times 200 = 40.0 \quad \text{mm}$$

$$\begin{array}{ccccccc} & (\text{幅}) & & (\text{深さ}) & & (\text{延長}) & & (\text{比重}) \end{array}$$

$$W = 0.00020 \times 0.04 \times 2.600 \times 1140 \text{ kg/m}^3 = 0.024 \quad \text{kg}$$

3) シール材

シール幅30mm、シール厚2mmとして算出

$$\begin{array}{ccccccc} & (\text{幅}) & & (\text{深さ}) & & (\text{延長}) & & (\text{比重}) \end{array}$$

$$W = 0.030 \times 0.002 \times 2.600 \times 1600 \text{ kg/m}^3 = 0.25 \quad \text{kg}$$

4) 低圧注入器具

(設置間隔250mmとして)

$$N = 2.600 \div 0.250 = 10.400 \quad = \quad 11 \quad \text{個}$$

ひびわれ注土工

(ひびわれ幅 0.2以上～1.00未満)

$$\text{平均ひびわれ幅} = 0.20 \quad \text{mm}$$

位置		幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m)
主桁(頂版)	1	0.20	1.000	1	1.000
	2	0.20	0.700	1	0.700
	3	0.20	0.900	1	0.900
合計		2.600			

(2) ひびわれ充填工

1) ひびわれ延長

$$L = 3.430 \quad = 3.430 \quad \text{m}$$

2) プライマー (0.15kg/m²)

$$W = (0.010 + 0.015 \times 2) \times 3.430 \times 0.15 \text{ kg/m}^2 = 0.021 \quad \text{kg}$$

3) 充填材 (エポキシ樹脂系)

$$W = 0.010 \times 0.015 \times 3.430 \times 1300 \text{ kg/m}^3 = 0.669 \quad \text{kg}$$

ひびわれ充填工

(ひびわれ幅 1.00以上)

位置		幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m)
主桁(頂版)	1	遊離石灰	0.100	2	0.200
	2	遊離石灰	0.250	1	0.250
	3	遊離石灰	0.200	1	0.200
	4	遊離石灰	0.400	1	0.400
	5	遊離石灰	0.300	1	0.300
	6	遊離石灰	0.200	1	0.200
	7	遊離石灰	0.600	1	0.600
	8	遊離石灰	0.400	1	0.400
	9	1.00	0.230	1	0.230
	10	遊離石灰	0.550	1	0.550
	11	遊離石灰	0.100	1	0.100
合計		3.430			

(3) ケレン除去工

1) サンダーケレン

A = 3.820

= 3.820 m²

位置		幅 (m)	長さ (m)	箇所数	数量 (m2)
主桁(頂板)	1	0.10	0.500	1	0.050
	2	0.10	0.500	1	0.050
	3	0.10	0.400	1	0.040
	4	0.10	0.300	1	0.030
	5	0.20	2.700	1	0.540
	6	0.10	0.400	1	0.040
	7	0.40	4.400	1	1.760
	8	0.10	0.500	1	0.050
	9	0.10	0.100	1	0.010
	10	0.10	0.300	1	0.030
	11	0.10	1.300	1	0.130
	12	0.10	0.800	1	0.080
	13	0.10	1.200	1	0.120
	14	0.10	5.200	1	0.520
	15	0.10	0.500	1	0.050
	16	0.10	1.100	1	0.110
	17	0.10	1.900	1	0.190
	18	0.10	0.200	1	0.020
合計		3.820			

(4) 断面修復工 (左官工－鉄筋ケレン・防錆処理を含まない)

1) 断面修復材

$$V = 0.2342 \quad = \quad 0.2342 \quad \text{m}^3$$

2) プライマー

$$\text{プライマー塗布量} \quad 0.15 \text{ kg/m}^2$$

$$A = 7.807 \quad = \quad 7.807 \quad \text{m}^2$$

$$W = 0.15 \text{ kg/m}^2 \quad \times \quad 7.807 \quad = \quad 1.171 \quad \text{kg}$$

位置		はつり量					プライマー			
		幅 (m)	× 高さ (m)	× 深さ (m)	× 箇所数	数量(m ³)	幅 (m)	× 高さ (m)	× 箇所数	数量(m ²)
主桁(頂版)	1	0.10	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00030	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	2	0.05	× 0.05	× 0.03	× 2	0.00015	0.05	× 0.05	× 2	0.00500
	3	0.15	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00023	0.15	× 0.05	× 1	0.00750
	4	1.70	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00510	1.70	× 0.10	× 1	0.17000
	5	0.40	× 0.06	× 0.03	× 1	0.00072	0.40	× 0.06	× 1	0.02400
	6	0.40	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00120	0.40	× 0.10	× 1	0.04000
	7	0.10	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00030	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	8	3.00	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00900	3.00	× 0.10	× 1	0.30000
	9	0.15	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00032	0.15	× 0.07	× 1	0.01050
	10	3.80	× 0.15	× 0.03	× 1	0.01710	3.80	× 0.15	× 1	0.57000
	11	1.60	× 0.15	× 0.03	× 1	0.00720	1.60	× 0.15	× 1	0.24000
	12	0.50	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00150	0.50	× 0.10	× 1	0.05000
	13	1.90	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00456	1.90	× 0.08	× 1	0.15200
	14	1.00	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00300	1.00	× 0.10	× 1	0.10000
	15	1.60	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00384	1.60	× 0.08	× 1	0.12800
	16	0.40	× 0.10	× 0.03	× 2	0.00240	0.40	× 0.10	× 2	0.08000
	17	0.10	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00024	0.10	× 0.08	× 1	0.00800
	18	0.20	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00060	0.20	× 0.10	× 1	0.02000
	19	0.15	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00036	0.15	× 0.08	× 1	0.01200
	20	0.70	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00168	0.70	× 0.08	× 1	0.05600
	21	0.30	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00045	0.30	× 0.05	× 1	0.01500
	22	0.20	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00030	0.20	× 0.05	× 1	0.01000
	23	0.15	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00032	0.15	× 0.07	× 1	0.01050
	24	0.60	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00126	0.60	× 0.07	× 1	0.04200
	25	0.90	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00189	0.90	× 0.07	× 1	0.06300
	26	1.50	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00450	1.50	× 0.10	× 1	0.15000
	27	1.40	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00420	1.40	× 0.10	× 1	0.14000
	28	0.70	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00210	0.70	× 0.10	× 1	0.07000
	29	2.00	× 1.00	× 0.03	× 1	0.06000	2.00	× 1.00	× 1	2.00000
	30	0.40	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00060	0.40	× 0.05	× 1	0.02000
	31	1.30	× 1.00	× 0.03	× 1	0.03900	1.30	× 1.00	× 1	1.30000
	32	0.30	× 0.70	× 0.03	× 1	0.00630	0.30	× 0.70	× 1	0.21000
	33	0.30	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00090	0.30	× 0.10	× 1	0.03000
	34	0.20	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00030	0.20	× 0.05	× 1	0.01000
	35	0.60	× 0.06	× 0.03	× 1	0.00108	0.60	× 0.06	× 1	0.03600

主桁(頂版)	36	$0.30 \times 0.05 \times 0.03 \times 1$	0.00045	$0.30 \times 0.05 \times 1$	0.01500
	37	$0.60 \times 0.10 \times 0.03 \times 1$	0.00180	$0.60 \times 0.10 \times 1$	0.06000
	38	$1.60 \times 1.00 \times 0.03 \times 1$	0.04800	$1.60 \times 1.00 \times 1$	1.60000
	39	$0.20 \times 0.10 \times 0.03 \times 1$	0.00060	$0.20 \times 0.10 \times 1$	0.02000
	40	$0.20 \times 0.06 \times 0.03 \times 1$	0.00036	$0.20 \times 0.06 \times 1$	0.01200
合計		0.23421		7.80650	

3. 下部工コンクリート補修工

3.1 数量集計表

レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格等	単位	数量	備考
ケレン除去工	サンダーケレン		m ²	0.51	
断面修復工 (左官工-防錆処理なし)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.01	
	プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	0.07	
断面修復工 (左官工-防錆処理あり)	断面補修材	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.02	
	プライマー塗布	エポキシ樹脂接着	kg	0.06	
表面含浸工	下地処理		m ²	0.4	
	含浸工	シラン系・ケイ酸塩系ハイブリッド型表面含浸材	m ²	0.4	

3.2 数量計算

下部工

(1) ケレン除去工

1) サンダーケレン

$$A = 0.510 \quad = 0.510 \text{ m}^2$$

位置		幅 (m)	長さ (m)	箇所数	数量 (m2)
A1橋台 (側壁)	1	0.10	3.700	1	0.370
	2	0.10	1.400	1	0.140
合計		0.510			

(2) 断面修復工 (左官工-鉄筋ケレン・防錆処理を含まない)

1) 断面修復材

$$V = 0.0145 \quad = 0.0145 \text{ m}^3$$

2) プライマー

$$\text{プライマー塗布量} \quad 0.15 \text{ kg/m}^2$$

$$A = 0.481 \quad = 0.481 \text{ m}^2$$

$$W = 0.15 \text{ kg/m}^2 \times 0.481 \quad = 0.072 \text{ kg}$$

位置		はつり量					プライマー								
		幅 (m)	×	高さ (m)	×	深さ (m)	×	箇所数	数量(m³)	幅 (m)	×	高さ (m)	×	箇所数	数量(m²)
A1橋台 (側壁)	1	0.03	×	0.70	×	0.03	×	1	0.00063	0.03	×	0.70	×	1	0.02100
	2	0.10	×	0.15	×	0.03	×	1	0.00045	0.10	×	0.15	×	1	0.01500
	3	0.05	×	0.20	×	0.03	×	1	0.00030	0.05	×	0.20	×	1	0.01000
	4	0.10	×	0.05	×	0.05	×	1	0.00025	0.10	×	0.05	×	1	0.00500
A2橋台 (側壁)	5	1.90	×	0.15	×	0.03	×	1	0.00855	1.90	×	0.15	×	1	0.28500
	6	0.90	×	0.10	×	0.03	×	1	0.00270	0.90	×	0.10	×	1	0.09000
	7	0.20	×	0.10	×	0.03	×	1	0.00060	0.20	×	0.10	×	1	0.02000
	8	0.15	×	0.05	×	0.03	×	1	0.00023	0.15	×	0.05	×	1	0.00750
	9	0.05	×	0.20	×	0.03	×	1	0.00030	0.05	×	0.20	×	1	0.01000
	10	0.05	×	0.35	×	0.03	×	1	0.00053	0.05	×	0.35	×	1	0.01750
合計		0.01454							0.48100						

(3) 断面修復工 (左官工・鉄筋ケレン・防錆処理を含む)

1) 断面修復材

$V = 0.0212$ = 0.0212 m³

2) プライマー

プライマー塗布量 0.15 kg/m²
 $A = 0.424$ = 0.424 m²
 $W = 0.15 \text{ kg/m}^2 \times 0.424$ = 0.064 kg

位置		はつり量					プライマー			
		幅 (m)	× 高さ (m)	× 深さ (m)	× 箇所数	数量(m ³)	幅 (m)	× 高さ (m)	× 箇所数	数量(m ²)
A1橋台 (側壁)	1	0.10	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00050	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	2	0.15	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00113	0.15	× 0.15	× 1	0.02250
	3	0.10	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00075	0.10	× 0.15	× 1	0.01500
	4	0.03	× 0.20	× 0.05	× 1	0.00030	0.03	× 0.20	× 1	0.00600
A2橋台 (側壁)	5	0.20	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00150	0.20	× 0.15	× 1	0.03000
	6	0.05	× 0.55	× 0.05	× 1	0.00138	0.05	× 0.55	× 1	0.02750
	7	0.10	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00075	0.10	× 0.15	× 1	0.01500
	8	0.60	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00450	0.60	× 0.15	× 1	0.09000
	9	1.00	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00500	1.00	× 0.10	× 1	0.10000
	10	0.10	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00050	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	11	0.05	× 0.05	× 0.05	× 2	0.00025	0.05	× 0.05	× 2	0.00500
	12	0.05	× 0.60	× 0.05	× 1	0.00150	0.05	× 0.60	× 1	0.03000
	13	0.05	× 0.80	× 0.05	× 1	0.00200	0.05	× 0.80	× 1	0.04000
	14	0.05	× 0.35	× 0.05	× 1	0.00088	0.05	× 0.35	× 1	0.01750
	15	0.05	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00025	0.05	× 0.10	× 1	0.00500
合計		0.02119					0.42350			

(4) 表面含浸工

1) 下地処理

$A = 0.4085$ $= 0.4085 \text{ m}^2$

2) 含浸工 (シラン系・ケイ酸塩系ハイブリッド型表面含浸材)

$A = 0.4085$ $= 0.4085 \text{ m}^2$

位置		幅 (m)	高さ (m)	箇所数	数量 (m2)
A1橋台 (側壁)	1	0.15	0.150	1	0.02250
	2	0.10	0.150	1	0.01500
	3	0.03	0.200	1	0.00600
A2橋台 (側壁)	4	0.20	0.150	1	0.03000
	5	0.05	0.550	1	0.02750
	6	0.10	0.150	1	0.01500
	7	0.60	0.150	1	0.09000
	8	1.00	0.100	1	0.10000
	9	0.10	0.100	1	0.01000
	10	0.05	0.050	2	0.00500
	11	0.05	0.600	1	0.03000
	12	0.05	0.800	1	0.04000
	13	0.05	0.350	1	0.01750
合計		0.40850			

4. 目地部補修工

4.1 数量集計表

レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格等	単位	数量	備考
既設目地撤去工	撤去延長	B=15mm, t=25mm	m	90.7	
目地補修工	バックアップ材		m	90.7	
			ℓ	13.6	
	シール材	高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材	m	90.7	

4.2 数量計算

(1) 撤去工 (B=15mm, t=25mm)

1) 撤去延長

$$L = 12.950 \times 7 = 90.65 \quad \text{m}$$

(2) 目地補修工

1) バックアップ材

$$L = 90.65 = 90.65 \quad \text{m}$$

$$V = 90.65 \times 0.015 \times 0.010 \times 1000 = 13.60 \quad \ell$$

2) シール材

$$V = 90.65 = 90.65 \quad \text{m}$$

5. 仮設工

5.1 数量集計表

レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格等	単位	数量	備考
足場工	枠組足場		掛m2	203.0	

5.2 数量計算

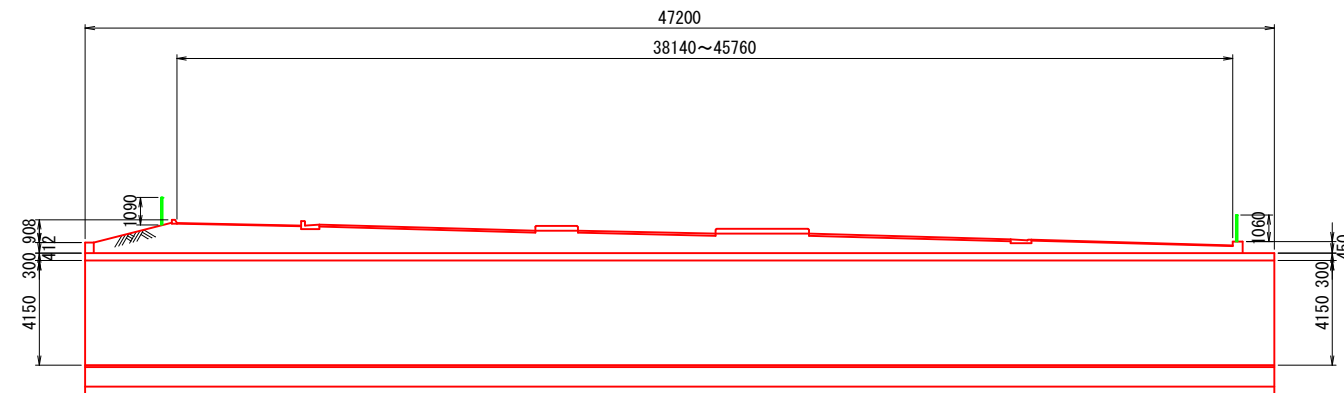
(1) 足場工

1) 枠組足場

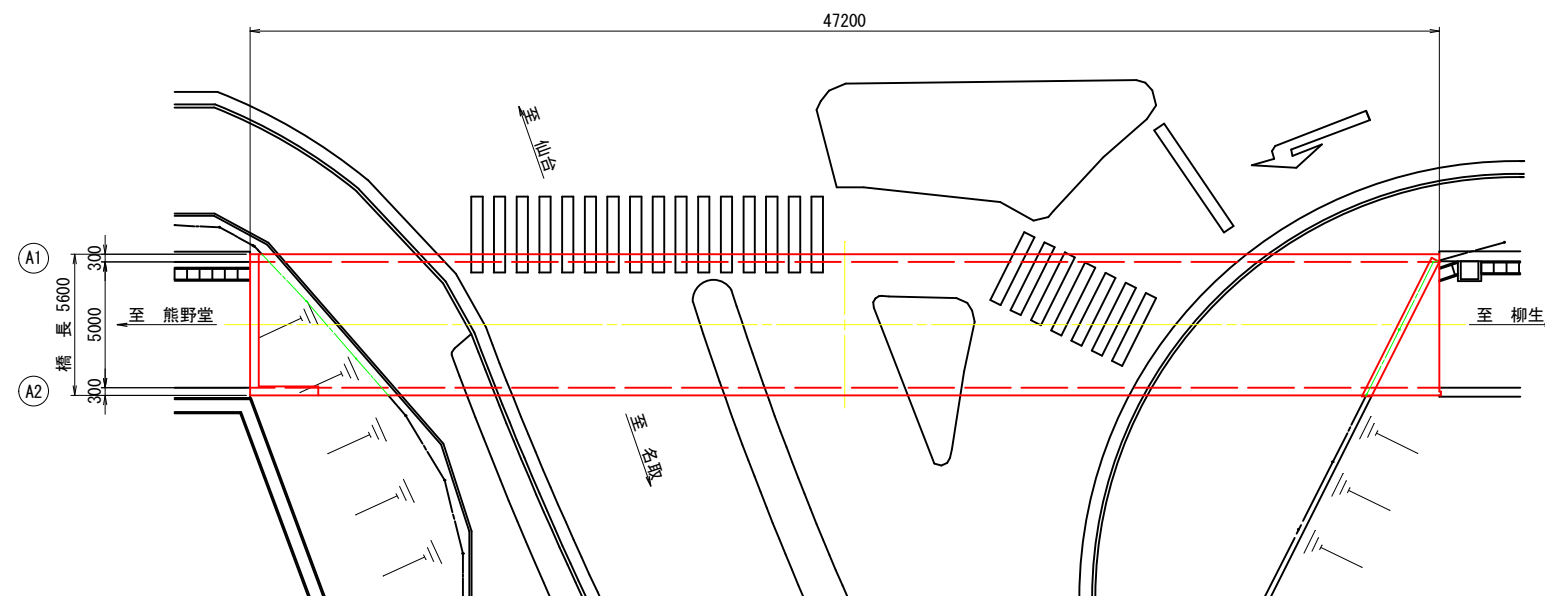
$$\begin{array}{rcll} A1 & = & \{ (4.200 + 4.100) \times 1 / 2 \} \times 47.2 & = 195.88 \text{ 掛m}^2 \\ A2 & = & 1.500 \times 4.710 & = 7.07 \text{ 掛m}^2 \\ \hline \Sigma A & = & & 202.95 \text{ 掛m}^2 \end{array}$$

余方線立体橋 現況一般図

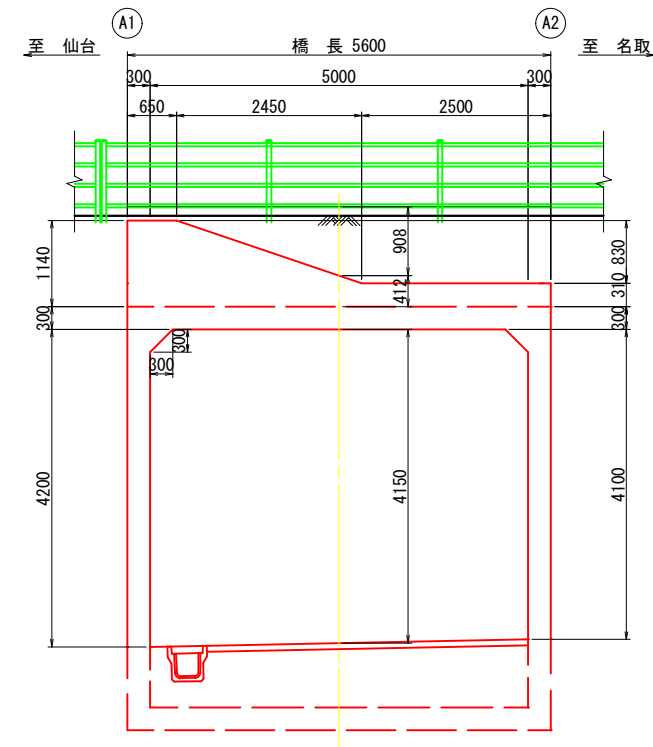
断面図 S=1:150
(S=1:300)



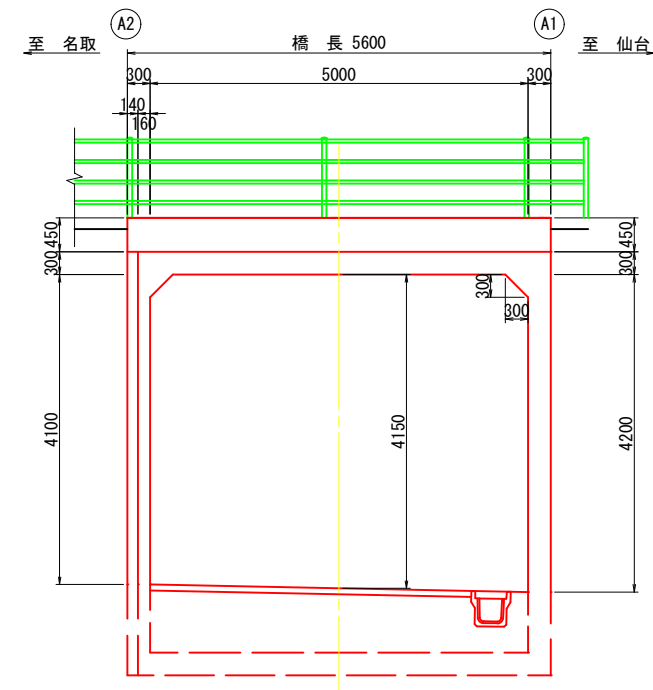
平面图 S=1:150
(S=1:300)



側 面 図 S=1:50
右 側 (S=1:100)







左側



設計条件

橋 梁 名	余方線立体橋
路 線 名	市道 熊野堂柳生線
所 在 地	名取市高館熊野堂字余方下東42番1号 地内
橋 長	5.600m
有効幅員	38.140m～45.760m
斜 角	90°
縦断勾配	不明
横断勾配	不明
上部工形式	溝橋(ボックスカルバート)
下部工形式	溝橋(ボックスカルバート)
基礎形式	-
施工年月	1999年(平成11年)
適用示方書	不明
活 荷 重	-
柵下条件	道路

() 内は縮小版の縮尺を表す。

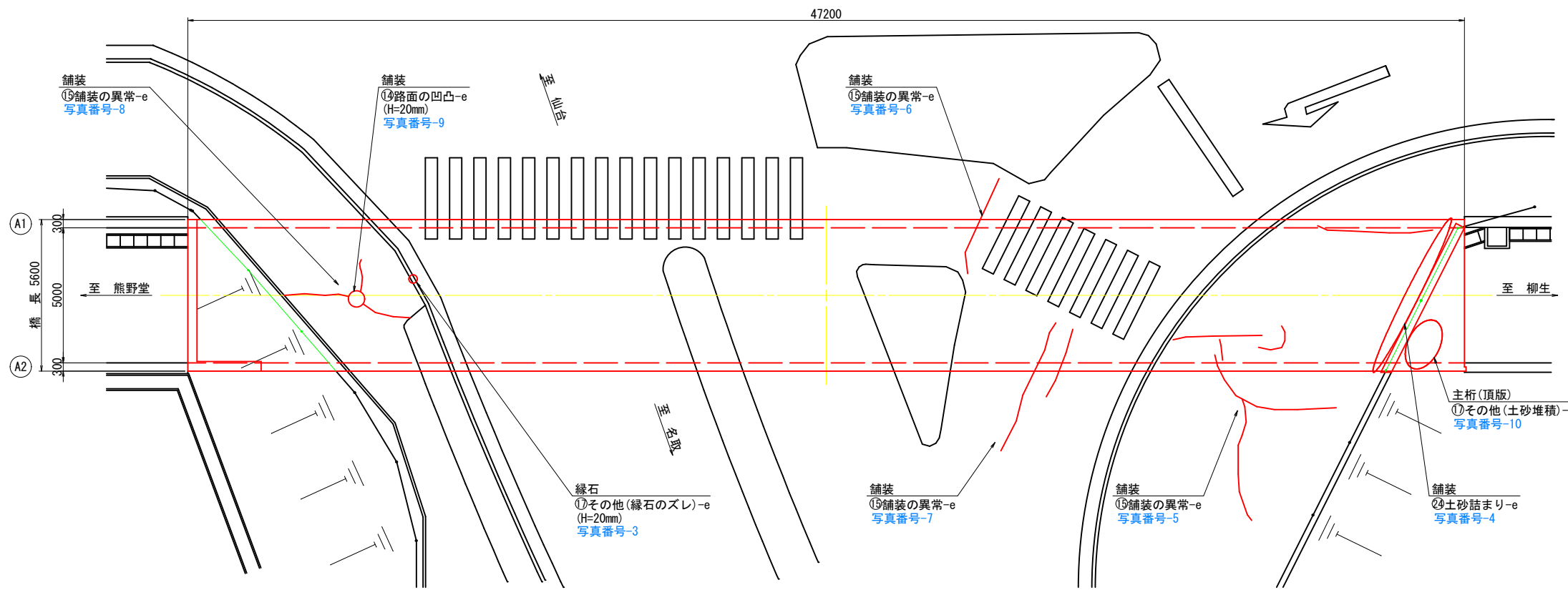
工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高館熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方緩立体橋)		
図名	現況一般図		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地青建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番	 	 

注記

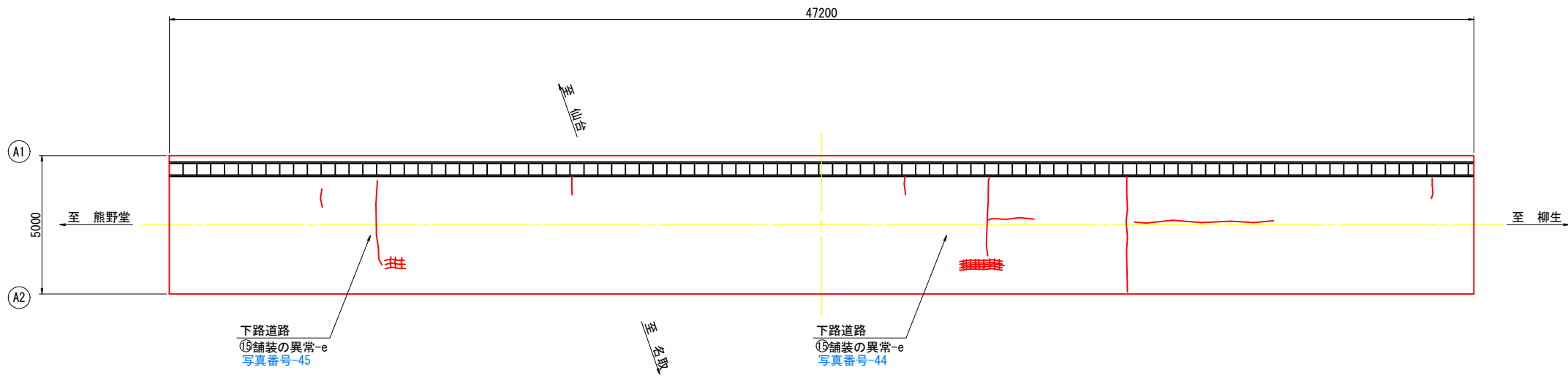
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 損傷図(その1)

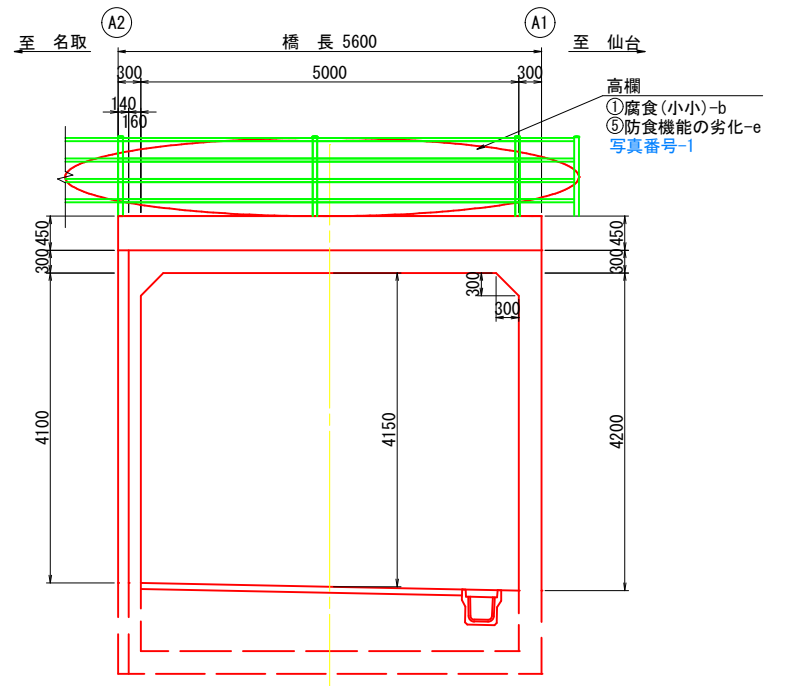
平面図 (橋面) S=1:100 (S=1:200)



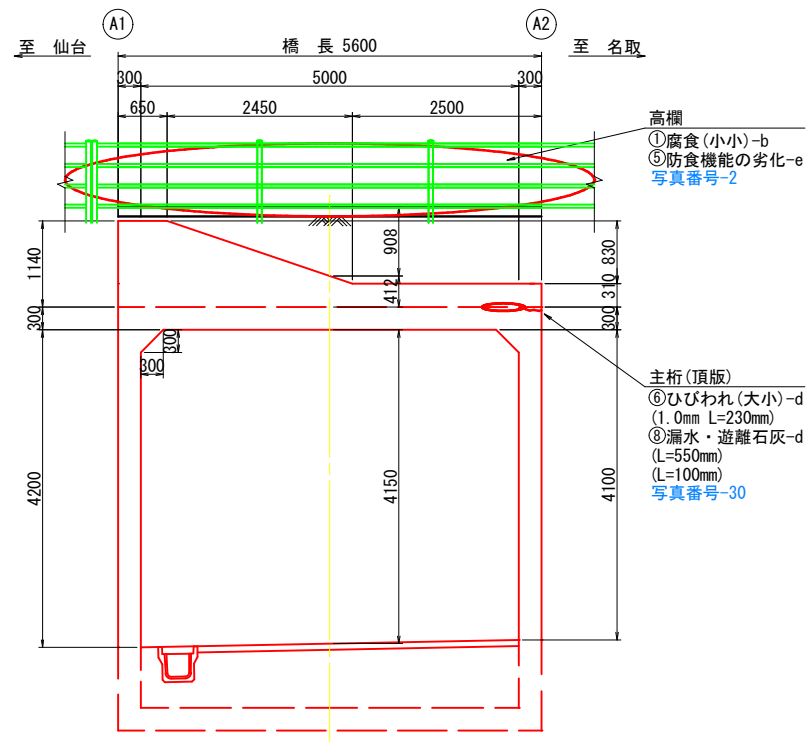
平面図 (下路部道路) S=1:100 (S=1:200)



側面図 左側 S=1:50 (S=1:100)



右側



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号	
路線名	市道 熊野堂柳生線
箇所	名取市 高野堂柳生 地内
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)
図名	損傷図(その1)
縮尺	図示
位置	-
設計者	株式会社建設企画
設計年度	令和7年度
名取市	図番

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 損傷図(その2)

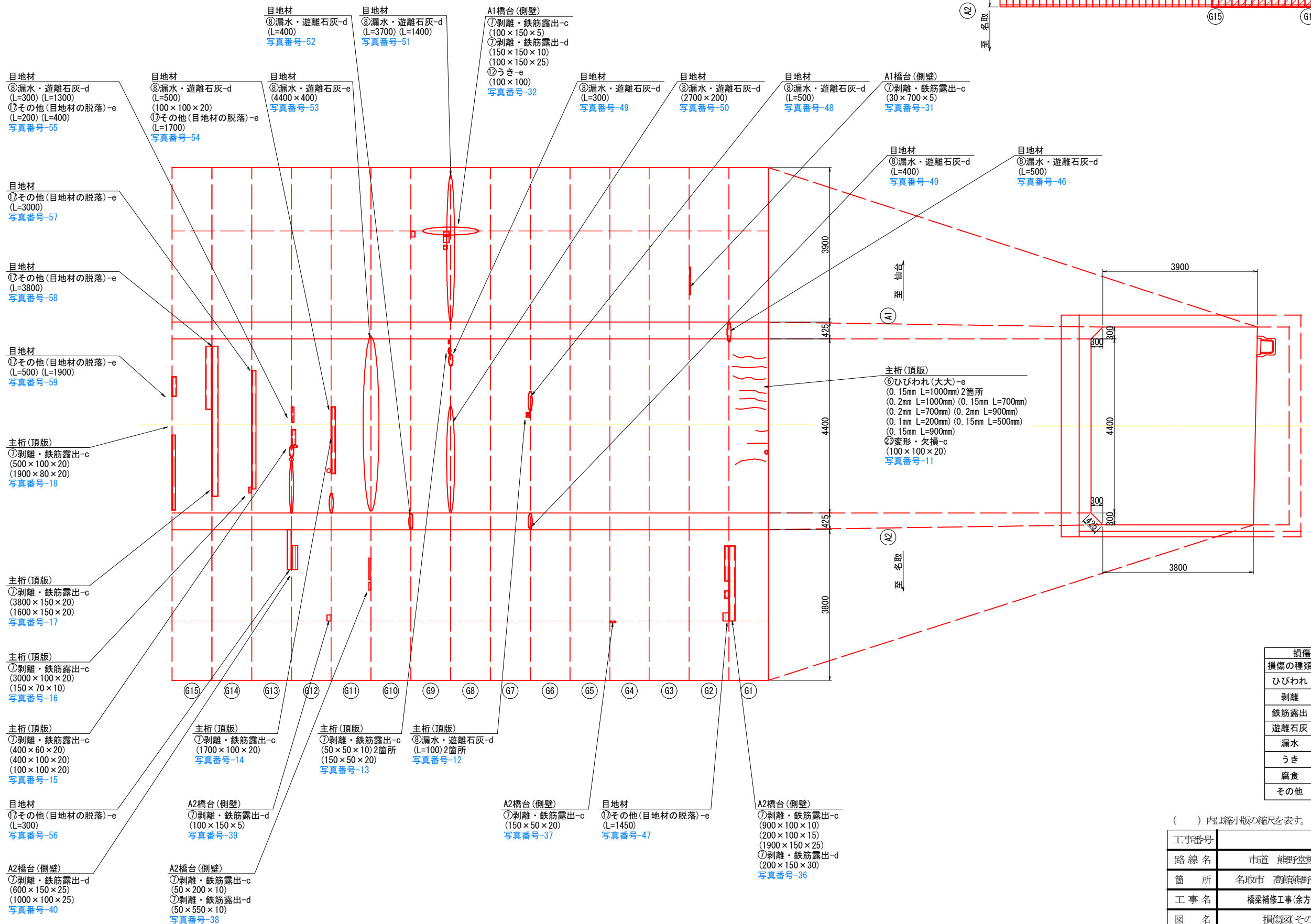
展開図

(G1~G15)

S=1:50
(S=1:100)

位置図

S=1:300
(S=1:600)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

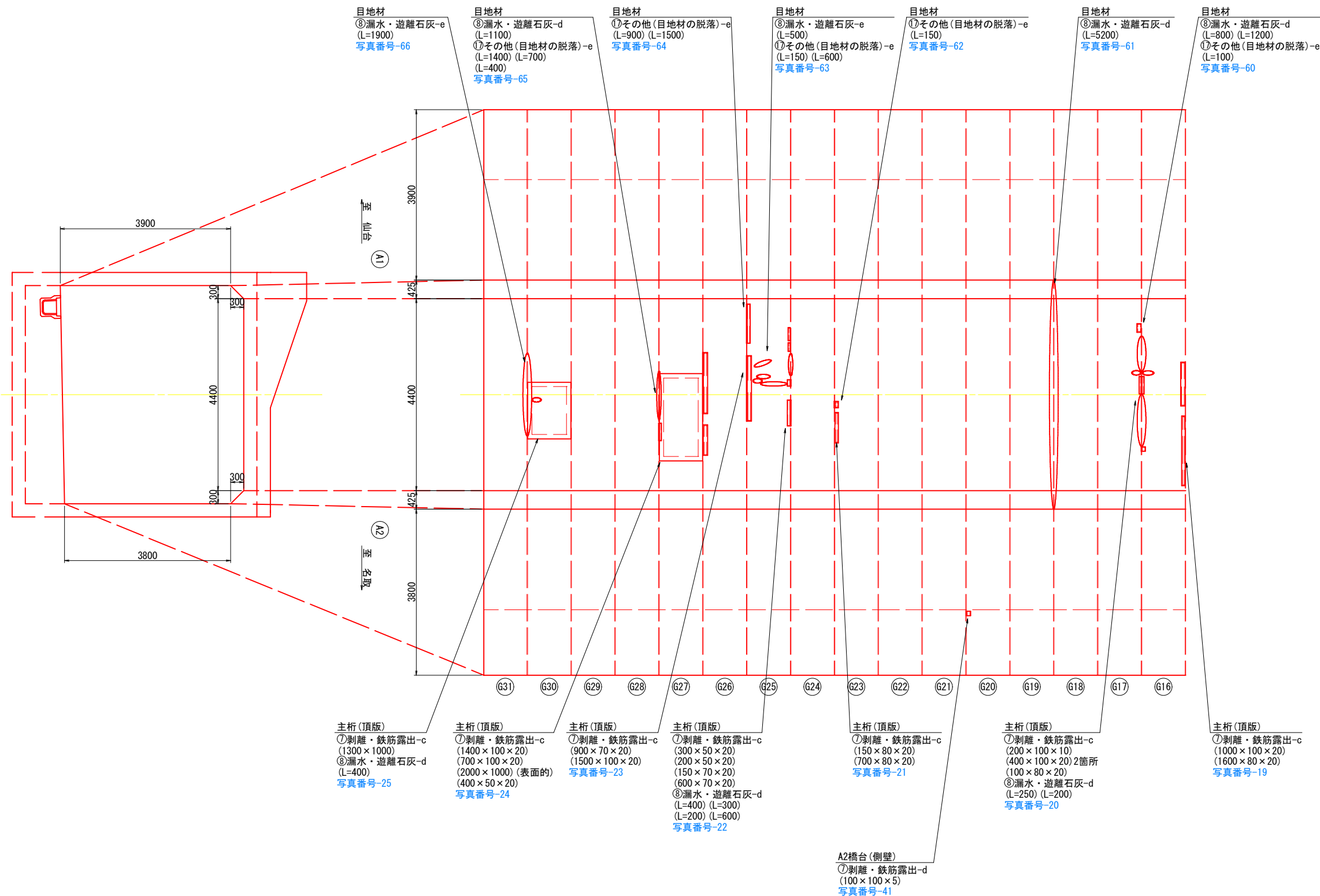
工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町柳生 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	損傷図(その2)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 損傷図(その3)

展開図
(G16~G31) S=1:50
(S=1:100)

位置図 S=1:300
(S=1:600)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	損傷図(その3)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

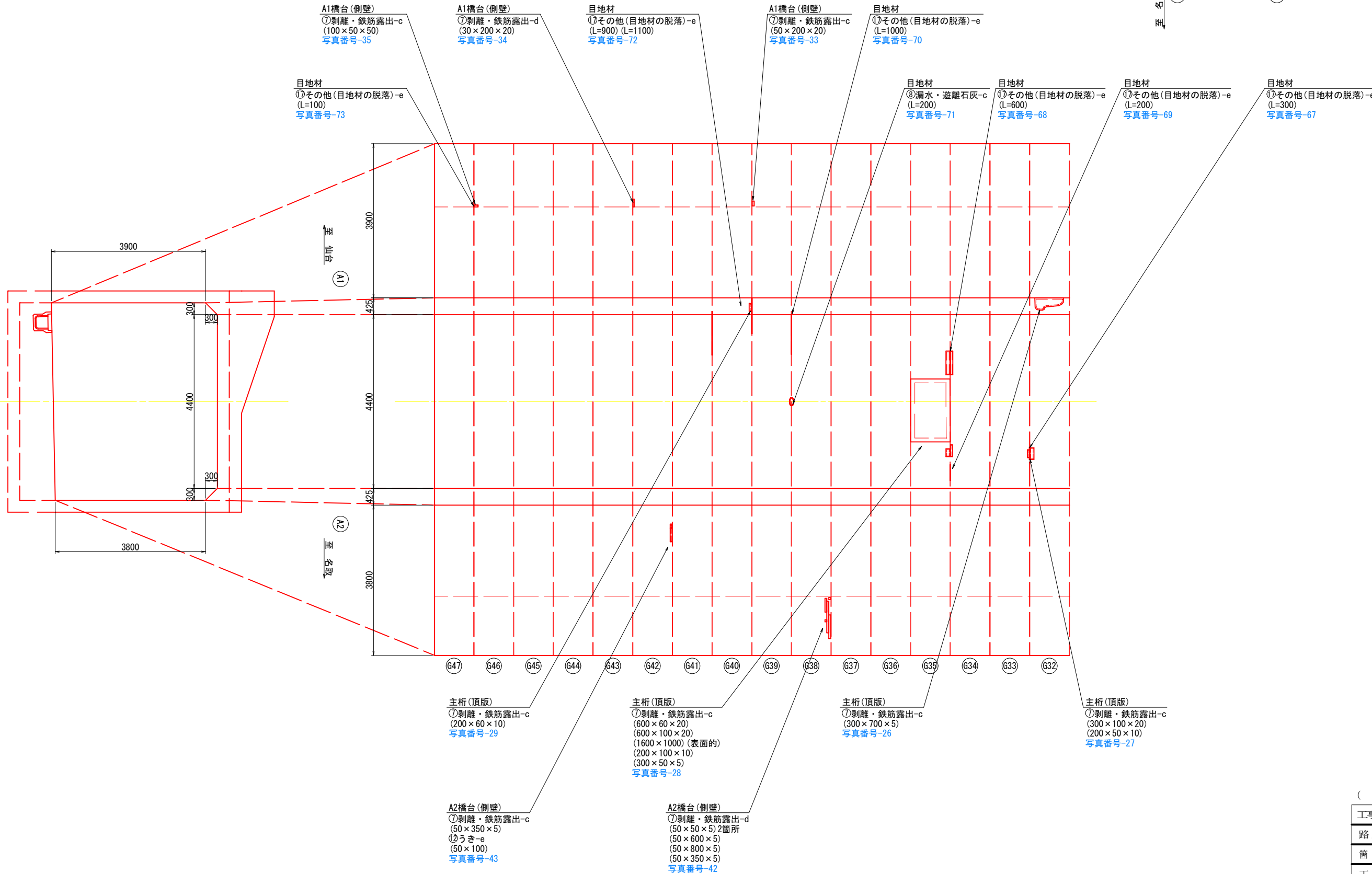
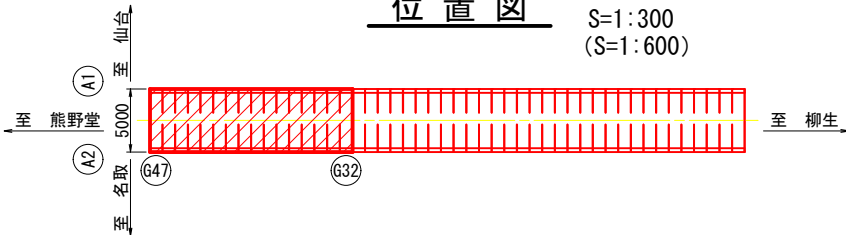
余方線立体橋 損傷図(その4)

展開図

(G32~G47) S=1:50 (S=1:100)

位置図

S=1:300 (S=1:600)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

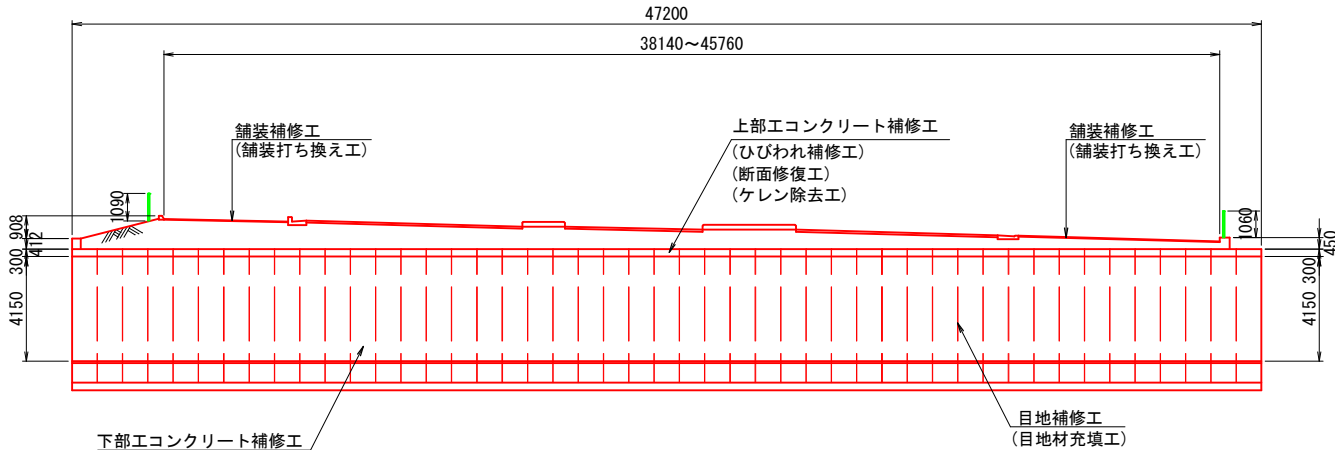
() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	損傷図(その4)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

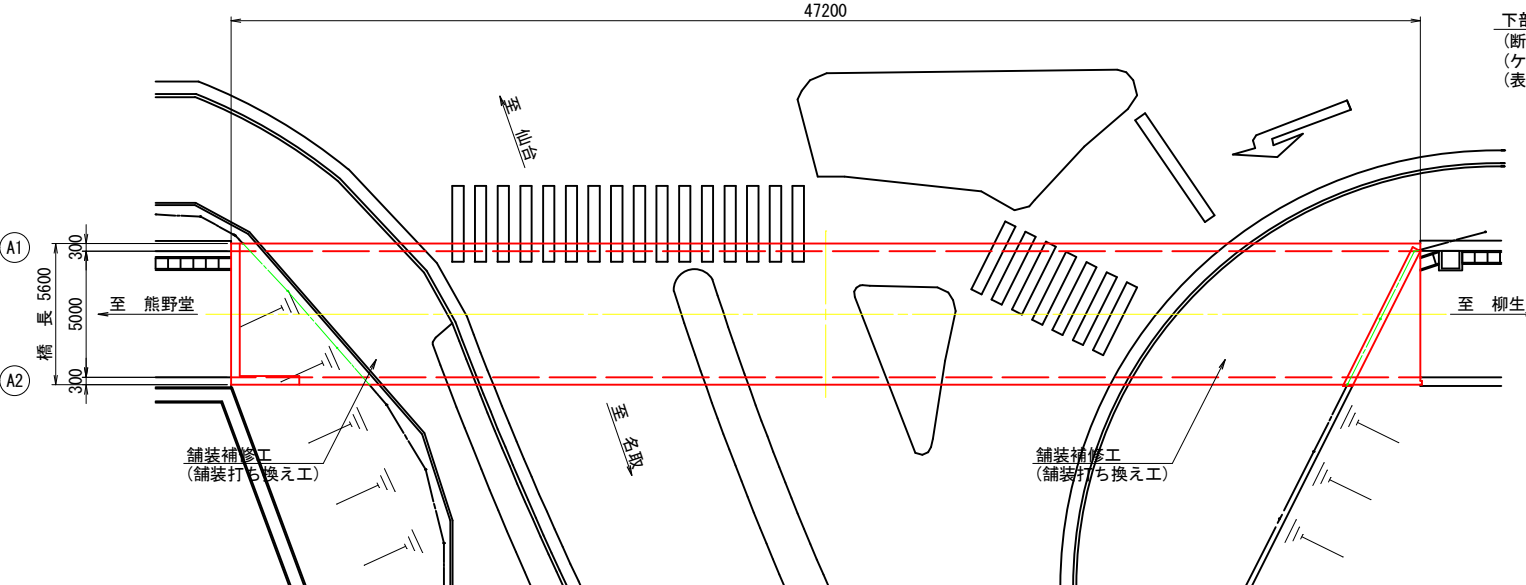
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 補修一般図

断面図 S=1:150
(S=1:300)



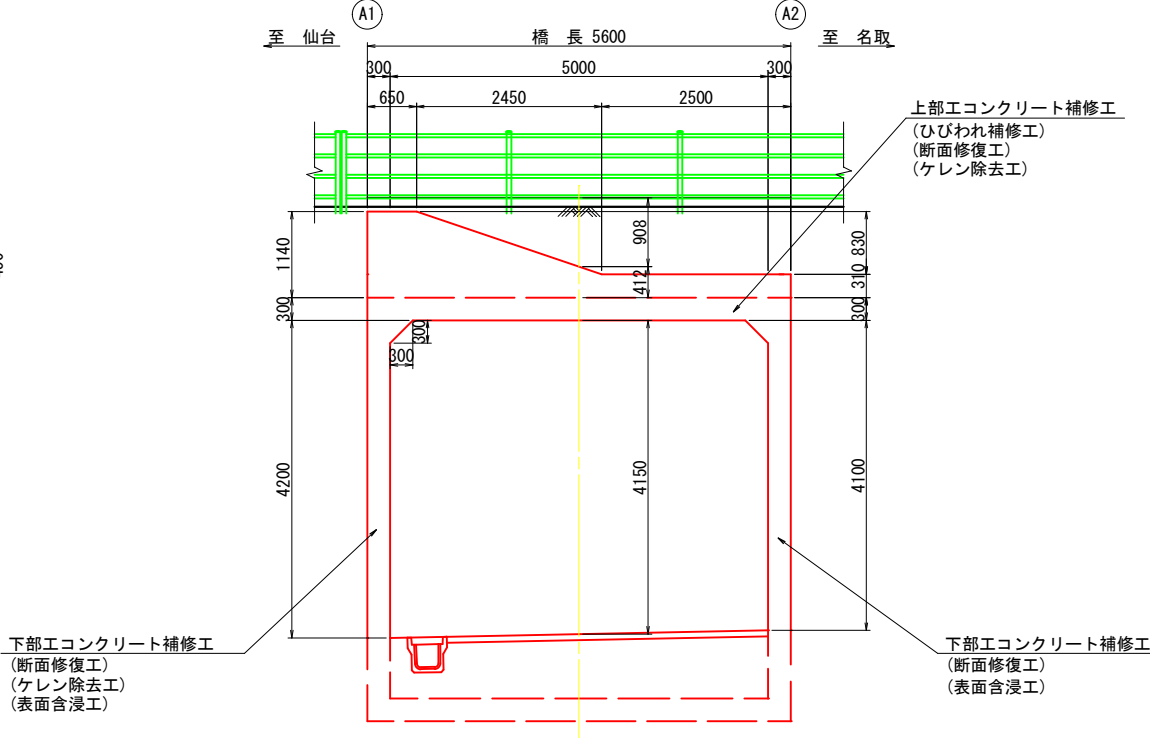
平面図 S=1:150
(S=1:300)



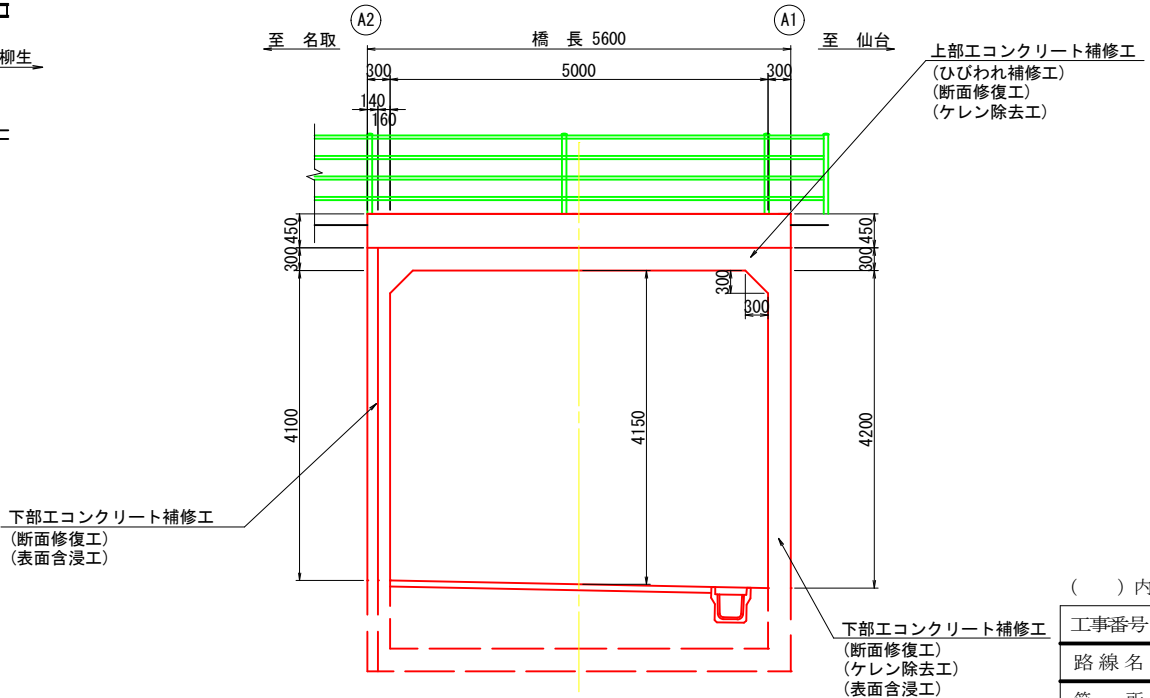
補修項目一覧

補修項目	補修工法	仕様
上部エコンクリート補修工	断面修復工	左官工法
	ひびわれ補修工	ひびわれ注入工、ひびわれ充填工
	ケレン除去工	サンダーケレン
下部エコンクリート補修工	断面修復工	左官工法
	ケレン除去工	サンダーケレン
	表面含浸工	シラン系+ケイ酸塩系ハイブリッド型含浸材
目地補修工	目地材充填工	高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材
舗装補修工	舗装打ち換え工	表層再生細粒度As13F t=30mm

側面図 S=1:50
(S=1:100)



左側



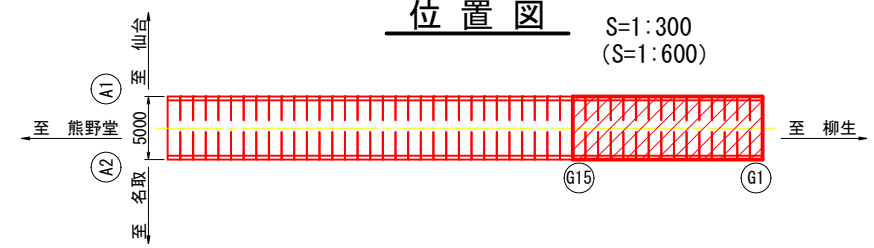
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

() 内は縮小版の縮尺を表す。

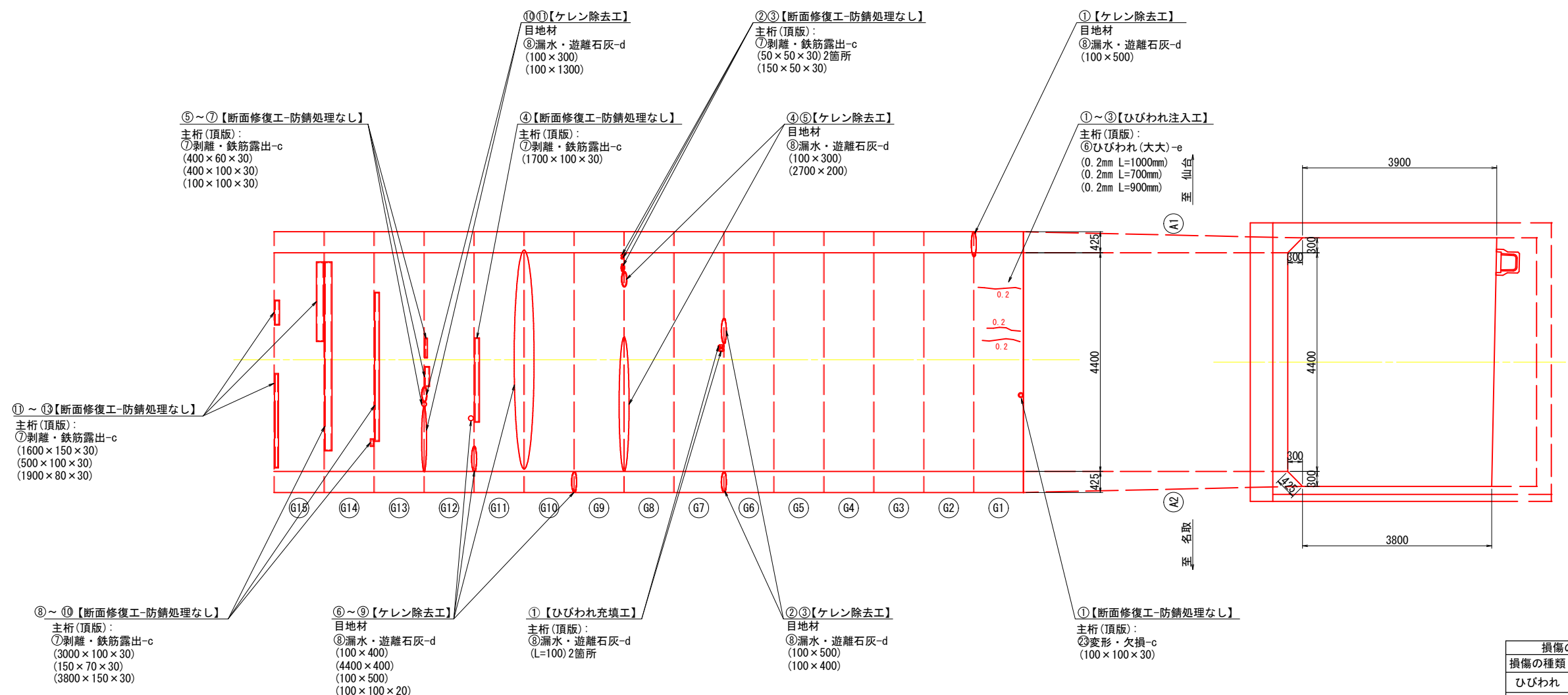
工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	補修一般図		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

余方線立体橋 上部エコンクリート補修図(その1)

位置図 S=1:300 (S=1:600)



展開図 S=1:50 (S=1:100)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

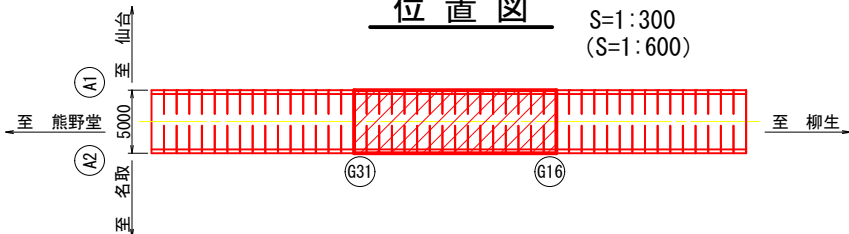
工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	上部エコンクリート補修図(その1)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 上部エコンクリート補修図(その2)

位置図

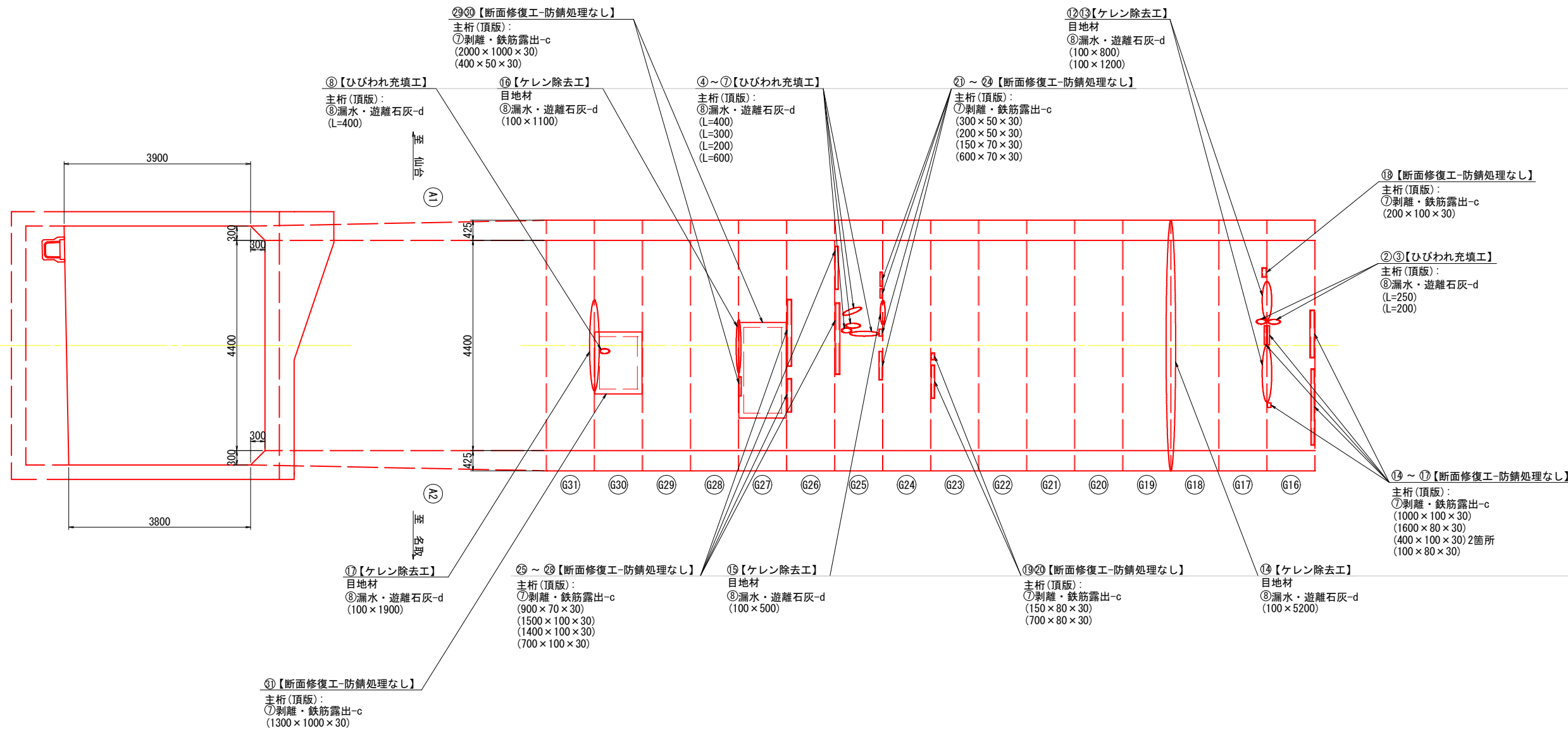
S=1:300
(S=1:600)



展開図

S=1:50
(S=1:100)

(G16~G31)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

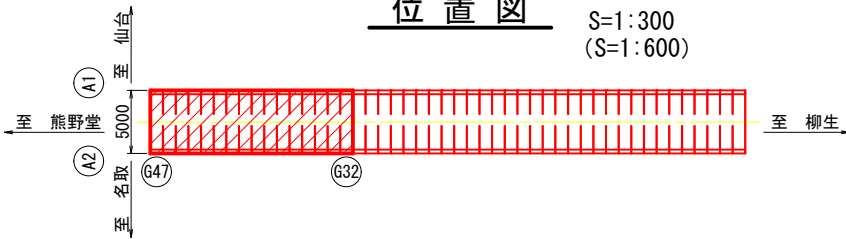
() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	上部エコンクリート補修図(その2)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番	縮尺	

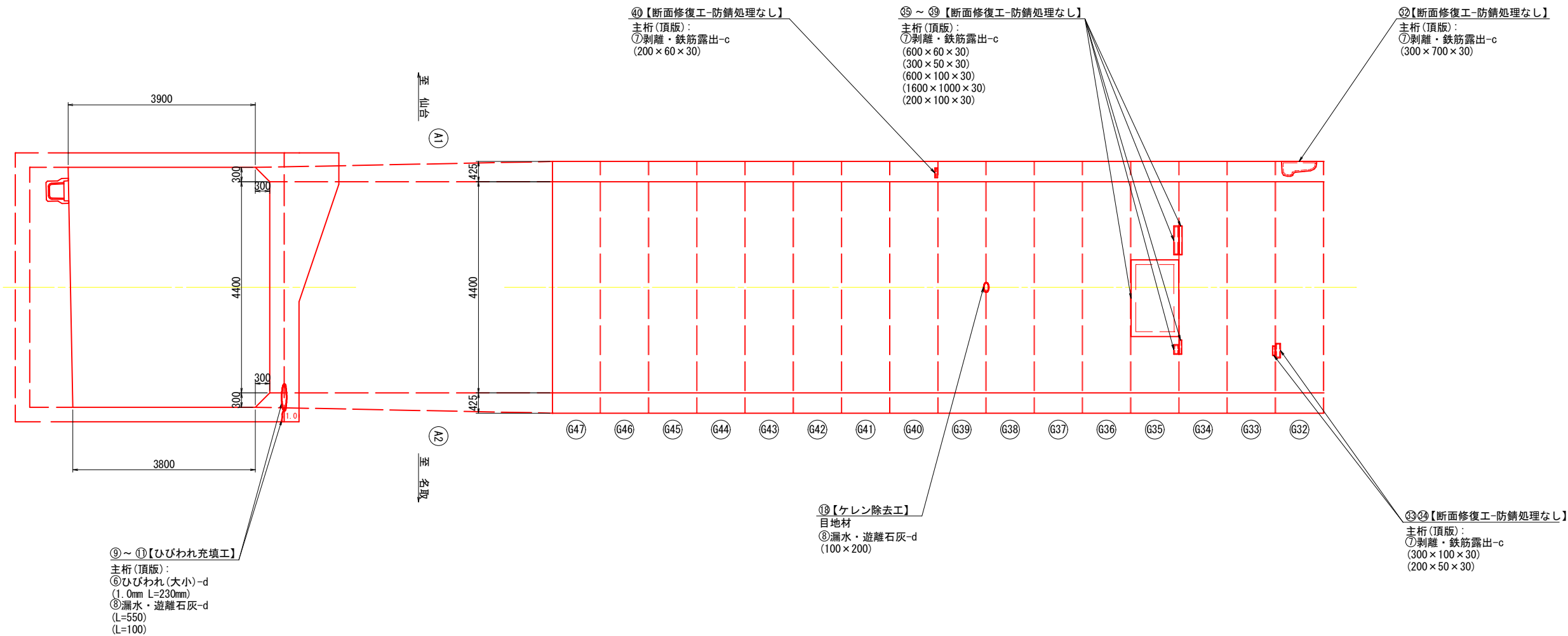
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 上部エコンクリート補修図(その3)

位置図 S=1:300 (S=1:600)



展開図 S=1:50 (S=1:100)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高野堂柳生 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	上部エコンクリート補修図(その3)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 上部エコンクリート補修図(その4)

ひびわれ注入工

(ひびわれ幅 0.20以上～1.00未満)
想定深さ40mm

位置	幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m)
主桁 (頂版)	① 0.20	1.000	1	1.000
	② 0.20	0.700	1	0.700
	③ 0.20	0.900	1	0.900
合計				2.600

ひびわれ充填工

(ひびわれ幅 1.00以上)

位置	幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m)
主桁 (頂版)	① 遊離石灰	0.100	2	0.200
	② 遊離石灰	0.250	1	0.250
	③ 遊離石灰	0.200	1	0.200
	④ 遊離石灰	0.400	1	0.400
	⑤ 遊離石灰	0.300	1	0.300
	⑥ 遊離石灰	0.200	1	0.200
	⑦ 遊離石灰	0.600	1	0.600
	⑧ 遊離石灰	0.400	1	0.400
	⑨ 1.00	0.230	1	0.230
	⑩ 遊離石灰	0.550	1	0.550
	⑪ 遊離石灰	0.100	1	0.100
合計				3.430

断面修復工 (左官エー鉄筋ケレン・防錆処理を含まない)

位置	研り量					プライマー				
	幅 (m)	高さ (m)	深さ (m)	箇所数	数量 (m ²)	幅 (m)	高さ (m)	箇所数	数量 (m ²)	
主桁 (頂版)	①	0.10	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00030	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	②	0.05	× 0.05	× 0.03	× 2	0.00015	0.05	× 0.05	× 2	0.00500
	③	0.15	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00023	0.15	× 0.05	× 1	0.00750
	④	1.70	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00510	1.70	× 0.10	× 1	0.17000
	⑤	0.40	× 0.06	× 0.03	× 1	0.00072	0.40	× 0.06	× 1	0.02400
	⑥	0.40	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00120	0.40	× 0.10	× 1	0.04000
	⑦	0.10	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00030	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	⑧	3.00	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00900	3.00	× 0.10	× 1	0.30000
	⑨	0.15	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00032	0.15	× 0.07	× 1	0.01050
	⑩	3.80	× 0.15	× 0.03	× 1	0.01710	3.80	× 0.15	× 1	0.57000
	⑪	1.60	× 0.15	× 0.03	× 1	0.00720	1.60	× 0.15	× 1	0.24000
	⑫	0.50	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00150	0.50	× 0.10	× 1	0.05000
	⑬	1.90	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00456	1.90	× 0.08	× 1	0.15200
	⑭	1.00	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00300	1.00	× 0.10	× 1	0.10000
	⑮	1.60	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00384	1.60	× 0.08	× 1	0.12800
	⑯	0.40	× 0.10	× 0.03	× 2	0.00240	0.40	× 0.10	× 2	0.08000
	⑰	0.10	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00024	0.10	× 0.08	× 1	0.00800
	⑱	0.20	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00060	0.20	× 0.10	× 1	0.02000
	⑲	0.15	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00036	0.15	× 0.08	× 1	0.01200
	⑳	0.70	× 0.08	× 0.03	× 1	0.00168	0.70	× 0.08	× 1	0.05600
	㉑	0.30	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00045	0.30	× 0.05	× 1	0.01500
	㉒	0.20	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00030	0.20	× 0.05	× 1	0.01000
	㉓	0.15	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00032	0.15	× 0.07	× 1	0.01050
	㉔	0.60	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00126	0.60	× 0.07	× 1	0.04200
	㉕	0.90	× 0.07	× 0.03	× 1	0.00189	0.90	× 0.07	× 1	0.06300
	㉖	1.50	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00450	1.50	× 0.10	× 1	0.15000
	㉗	1.40	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00420	1.40	× 0.10	× 1	0.14000
	㉘	0.70	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00210	0.70	× 0.10	× 1	0.07000
	㉙	2.00	× 1.00	× 0.03	× 1	0.06000	2.00	× 1.00	× 1	2.00000
	㉚	0.40	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00060	0.40	× 0.05	× 1	0.02000
	㉛	1.30	× 1.00	× 0.03	× 1	0.03900	1.30	× 1.00	× 1	1.30000
	㉜	0.30	× 0.70	× 0.03	× 1	0.00630	0.30	× 0.70	× 1	0.21000
	㉝	0.30	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00090	0.30	× 0.10	× 1	0.03000
	㉞	0.20	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00030	0.20	× 0.05	× 1	0.01000
	㉟	0.60	× 0.06	× 0.03	× 1	0.00108	0.60	× 0.06	× 1	0.03600
	㊱	0.30	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00045	0.30	× 0.05	× 1	0.01500
	㊲	0.60	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00180	0.60	× 0.10	× 1	0.06000
	㊳	1.60	× 1.00	× 0.03	× 1	0.04800	1.60	× 1.00	× 1	1.60000
	㊴	0.20	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00060	0.20	× 0.10	× 1	0.02000
	㊵	0.20	× 0.06	× 0.03	× 1	0.00036	0.20	× 0.06	× 1	0.01200
合計					0.23421				7.80650	

※修復深さの最小は3cmを目安とする。

遊離石灰ケレン除去工

位置	幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m2)
主桁 (頂版)	① 0.10	0.500	1	0.050
	② 0.10	0.500	1	0.050
	③ 0.10	0.400	1	0.040
	④ 0.10	0.300	1	0.030
	⑤ 0.20	2.700	1	0.540
	⑥ 0.10	0.400	1	0.040
	⑦ 0.40	4.400	1	1.760
	⑧ 0.10	0.500	1	0.050
	⑨ 0.10	0.100	1	0.010
	⑩ 0.10	0.300	1	0.030
	⑪ 0.10	1.300	1	0.130
	⑫ 0.10	0.800	1	0.080
	⑬ 0.10	1.200	1	0.120
	⑭ 0.10	5.200	1	0.520
	⑮ 0.10	0.500	1	0.050
	⑯ 0.10	1.100	1	0.110
	⑰ 0.10	1.900	1	0.190
	⑱ 0.10	0.200	1	0.020
合計				3.820

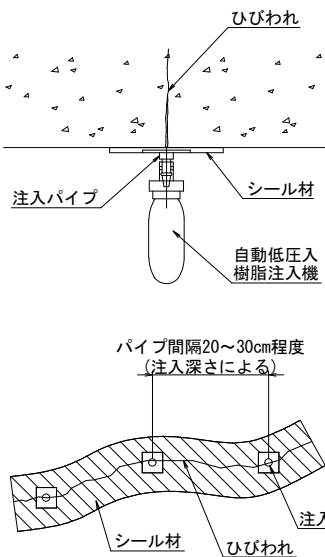
材 料 表

工 種	仕 様
ひびわれ補修工	ひびわれ注入工 エポキシ樹脂系注入材
	ひびわれ充填工 可撓性エポキシ樹脂系充填材
断面修復工	鋼材防錆処理工 亜硝酸塩系、アミノアルコール系等
	下 地 処 理 工 ポリマーセメント系ペースト材
	断 面 修 復 工 ポリマーセメント系モルタル材

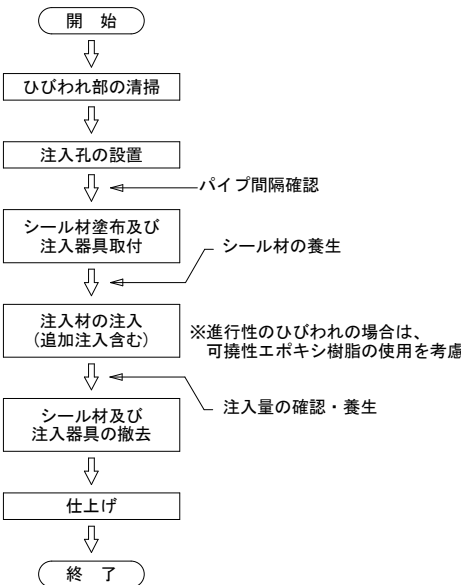
※. 鋼材防錆処理工は、鉄筋の露出が見られた場合に行う。

ひびわれ注入工

概 要 図



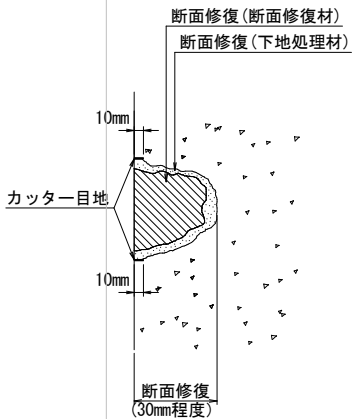
注入工のフローチャート



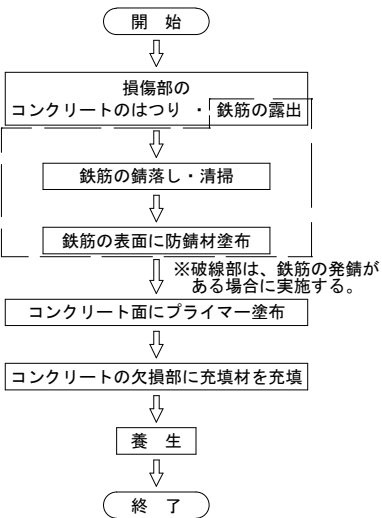
断面修復工

概 要 図

防錆処理を含まない

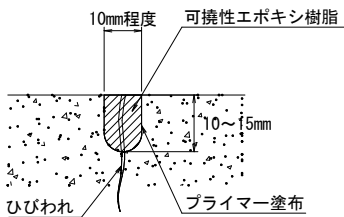


フローチャート

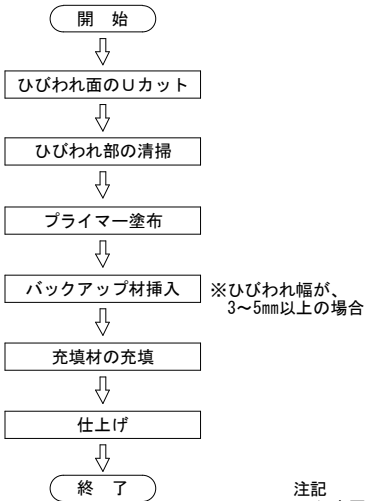


ひびわれ充填工

概 要 図



充填工のフローチャート



注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

() 内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高嶺熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	上部エコンクリート補修図(その4)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地青建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

余方線立体橋 下部エコンクリート補修図(その1)

展開図

(G1~G15)

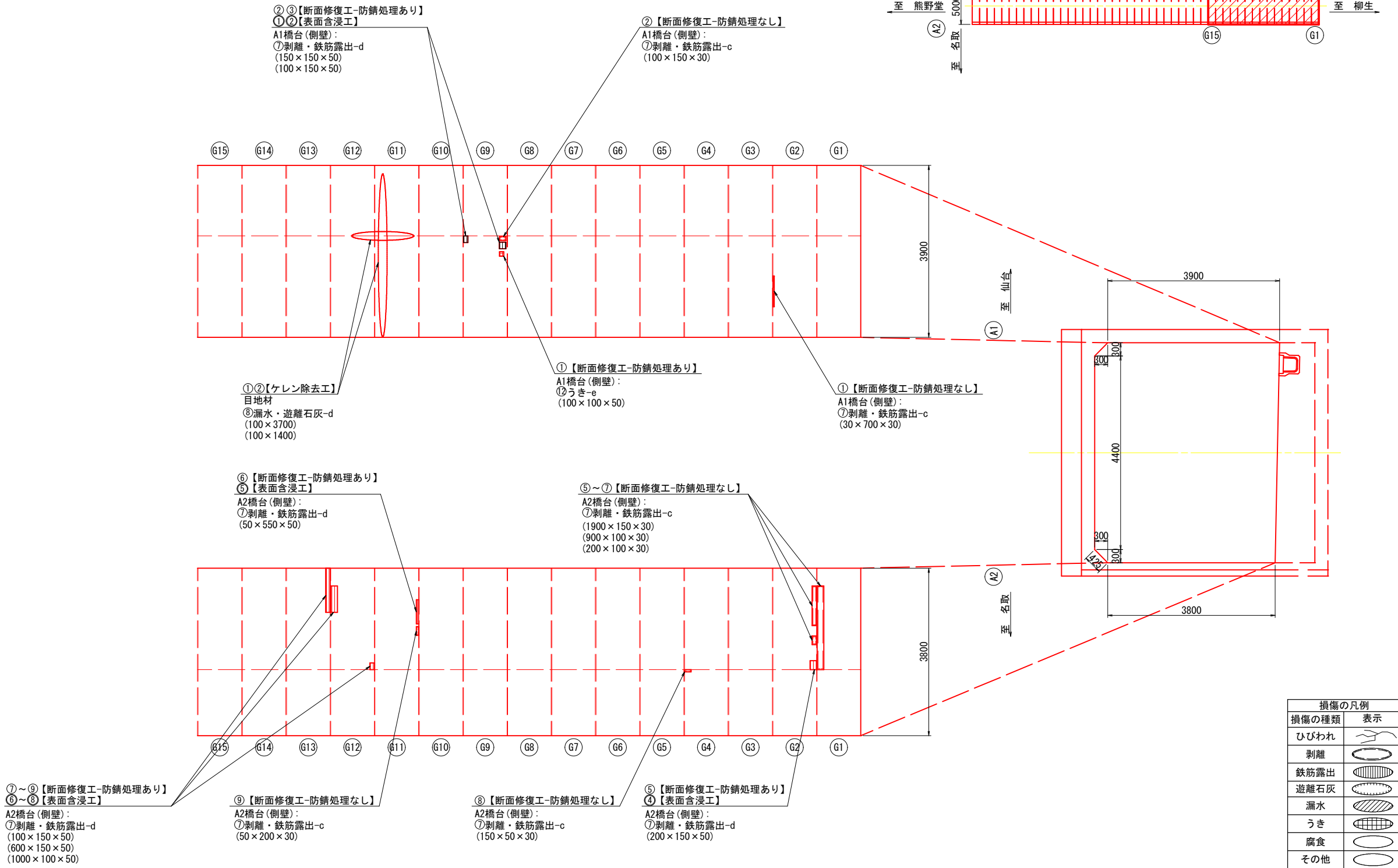
S=1:50

(S=1:100)

位置図

S=1:300

(S=1:600)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

() 内は縮小版の縮尺を表す。

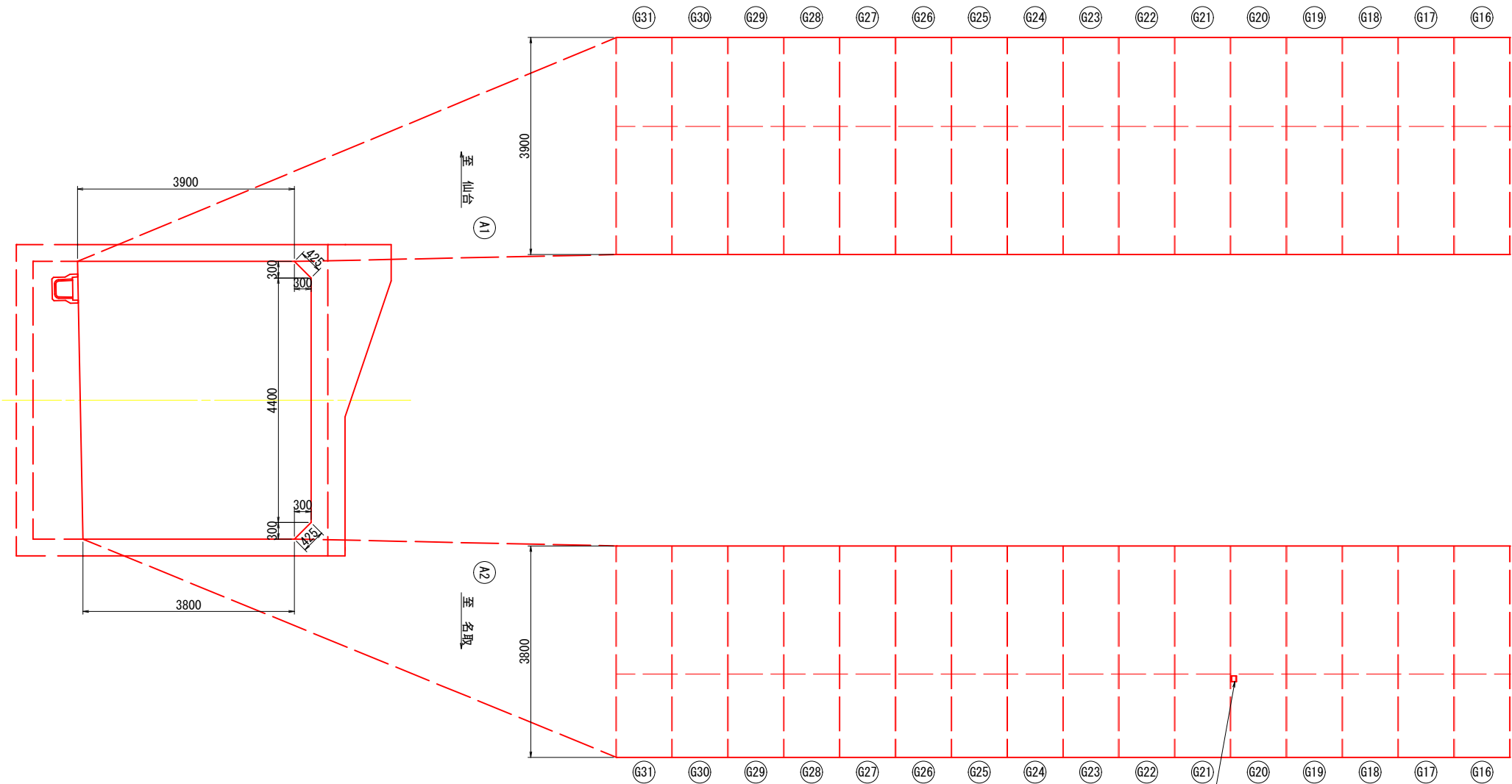
工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	下部エコンクリート補修図(その1)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

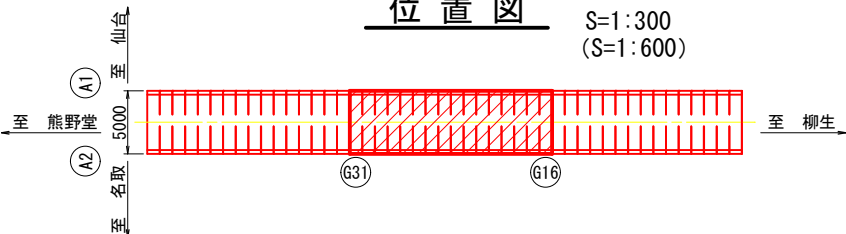
余方線立体橋 下部エコンクリート補修図(その2)

展開図
(G16~G31)
S=1:50
(S=1:100)

位置図
S=1:300
(S=1:600)



⑩【断面修復工-防錆処理あり】
⑨【表面含浸工】
A2橋台(側壁):
⑦剥離・鉄筋露出-d
(100×100×50)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

()内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	下部エコンクリート補修図(その2)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番	縮尺	

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

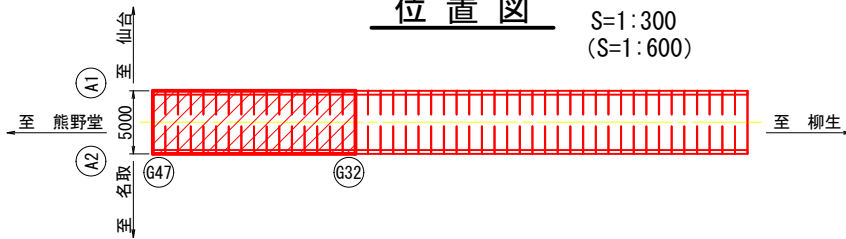
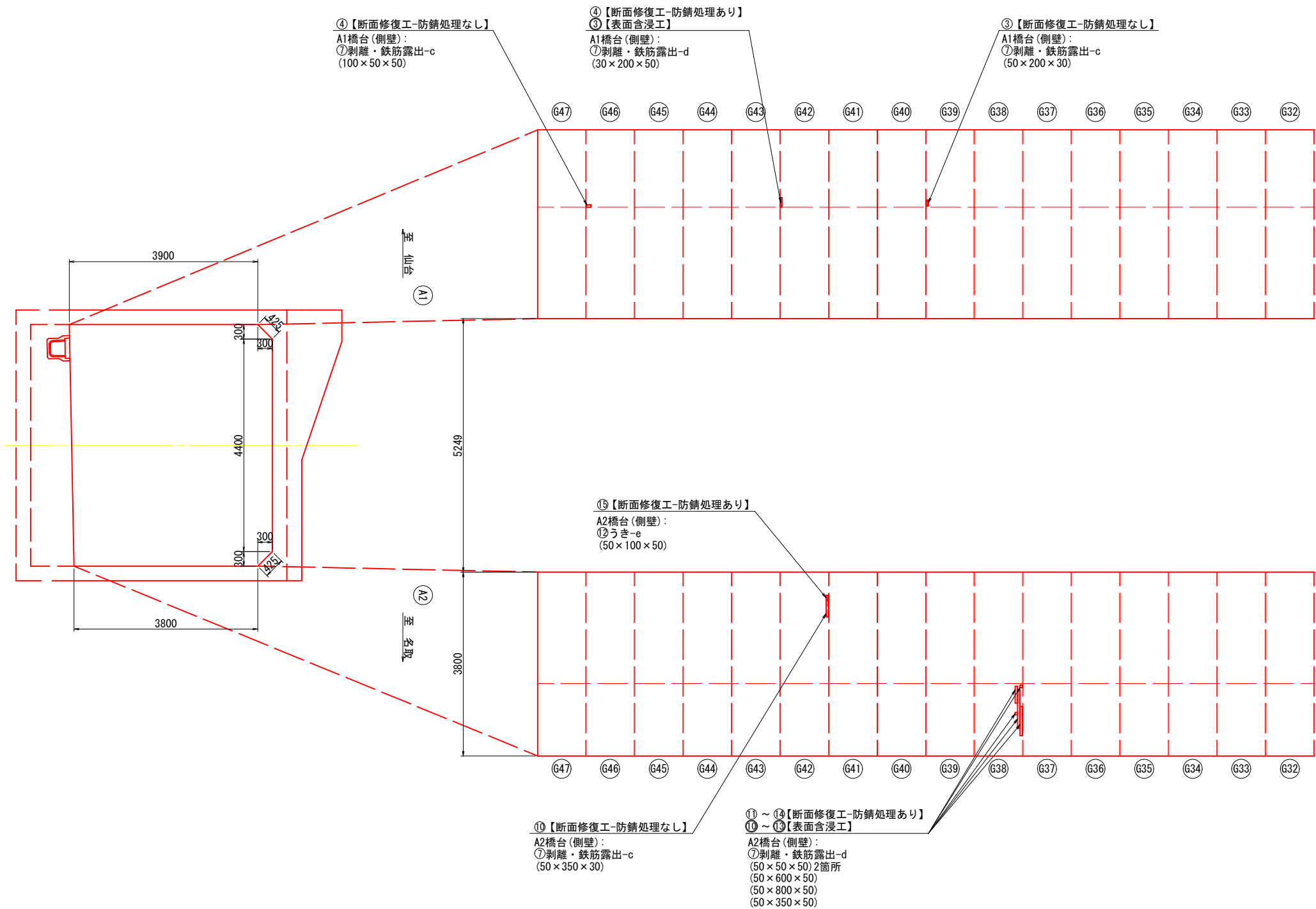
余方線立体橋 下部エコンクリート補修図(その3)

展開図

(G32~G47) S=1:50 (S=1:100)

位置図

S=1:300 (S=1:600)



損傷の凡例	
損傷の種類	表示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
漏水	
うき	
腐食	
その他	

()内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高瀬町熊野堂 地内		
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)		
図名	下部エコンクリート補修図(その3)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度
名取市	図番		

注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 下部エコンクリート補修図(その4)

断面修復工（左官エー鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）

位置	斫り量					プライマー				
	幅 (m)	高さ (m)	× 深さ (m)	× 箇所数	数量 (m ²)	幅 (m)	高さ (m)	× 箇所数	数量 (m ²)	
A1橋台 (側壁)	①	0.03	× 0.70	× 0.03	× 1	0.00063	0.03	× 0.70	× 1	0.02100
	②	0.10	× 0.15	× 0.03	× 1	0.00045	0.10	× 0.15	× 1	0.01500
	③	0.05	× 0.20	× 0.03	× 1	0.00030	0.05	× 0.20	× 1	0.01000
	④	0.10	× 0.05	× 0.05	× 1	0.00025	0.10	× 0.05	× 1	0.00500
A2橋台 (側壁)	⑤	1.90	× 0.15	× 0.03	× 1	0.00855	1.90	× 0.15	× 1	0.28500
	⑥	0.90	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00270	0.90	× 0.10	× 1	0.09000
	⑦	0.20	× 0.10	× 0.03	× 1	0.00060	0.20	× 0.10	× 1	0.02000
	⑧	0.15	× 0.05	× 0.03	× 1	0.00023	0.15	× 0.05	× 1	0.00750
	⑨	0.05	× 0.20	× 0.03	× 1	0.00030	0.05	× 0.20	× 1	0.01000
	⑩	0.05	× 0.35	× 0.03	× 1	0.00053	0.05	× 0.35	× 1	0.01750
合計					0.01454					

※修復深さの最小は3cmを目安とする。

遊離石灰ケレン除去工

位置		幅 (mm)	長さ (m)	箇所数	数量 (m2)
A1橋台 (側壁)	①	0.10	3.700	1	0.370
	②	0.10	1.400	1	0.140
合計		0.510			

断面修復工（左官エー鉄筋ケレン・防錆処理を含む）

位置	斫り量					プライマー				
	幅 (m)	高さ (m)	× 深さ (m)	× 箇所数	数量 (m ²)	幅 (m)	高さ (m)	× 箇所数	数量 (m ²)	
A1橋台 (側壁)	①	0.10	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00050	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	②	0.15	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00113	0.15	× 0.15	× 1	0.02250
	③	0.10	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00075	0.10	× 0.15	× 1	0.01500
	④	0.03	× 0.20	× 0.05	× 1	0.00030	0.03	× 0.20	× 1	0.00600
A2橋台 (側壁)	⑤	0.20	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00150	0.20	× 0.15	× 1	0.03000
	⑥	0.05	× 0.55	× 0.05	× 1	0.00138	0.05	× 0.55	× 1	0.02750
	⑦	0.10	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00075	0.10	× 0.15	× 1	0.01500
	⑧	0.60	× 0.15	× 0.05	× 1	0.00450	0.60	× 0.15	× 1	0.09000
	⑨	1.00	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00500	1.00	× 0.10	× 1	0.10000
	⑩	0.10	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00050	0.10	× 0.10	× 1	0.01000
	⑪	0.05	× 0.05	× 0.05	× 2	0.00025	0.05	× 0.05	× 2	0.00500
	⑫	0.05	× 0.60	× 0.05	× 1	0.00150	0.05	× 0.60	× 1	0.03000
	⑬	0.05	× 0.80	× 0.05	× 1	0.00200	0.05	× 0.80	× 1	0.04000
	⑭	0.05	× 0.35	× 0.05	× 1	0.00088	0.05	× 0.35	× 1	0.01750
	⑮	0.05	× 0.10	× 0.05	× 1	0.00025	0.05	× 0.10	× 1	0.00500
合計					0.02119					

※修復深さの最小は5cmを目安とする。

表面含浸工

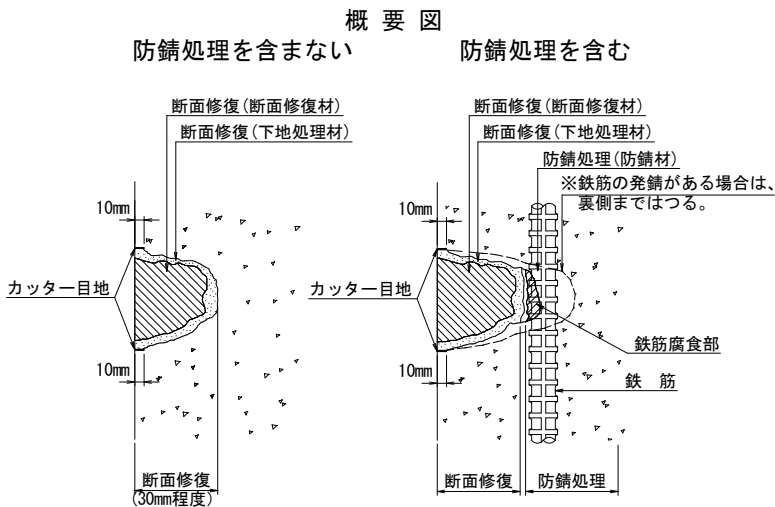
工 法	位 置		寸 法					
表面含浸工	A1橋台 (側壁)	①	0.15	×	0.15	×	1	0.02250
		②	0.10	×	0.15	×	1	0.01500
		③	0.03	×	0.20	×	1	0.00600
	A2橋台 (側壁)	④	0.20	×	0.15	×	1	0.03000
		⑤	0.05	×	0.55	×	1	0.02750
		⑥	0.10	×	0.15	×	1	0.01500
		⑦	0.60	×	0.15	×	1	0.09000
		⑧	1.00	×	0.10	×	1	0.10000
		⑨	0.10	×	0.10	×	1	0.01000
		⑩	0.05	×	0.05	×	2	0.00500
		⑪	0.05	×	0.60	×	1	0.03000
		⑫	0.05	×	0.80	×	1	0.04000
		⑬	0.05	×	0.35	×	1	0.01750
		合計						

材 料 表

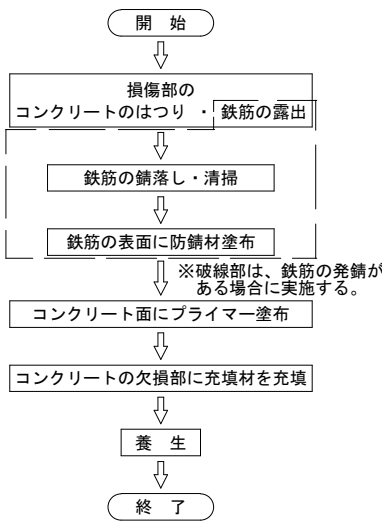
工 種		仕 様
断面修復工	鋼材防錆処理工	亜硝酸塩系、アミノアルコール系等
	下 地 処 理 工	ポリマーセメント系ペースト材
	断 面 修 復 工	ポリマーセメント系モルタル材
表面含浸工		シラン系・ケイ酸塩系ハイブリッド型表面含浸材

※：鋼材防錆処理工は、鉄筋の露出が見られた場合に行う。

断面修復工

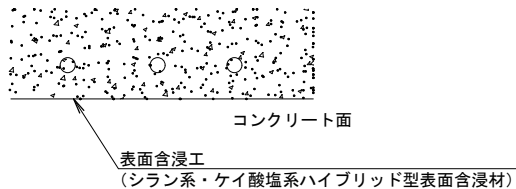
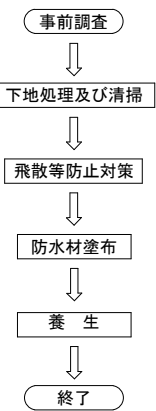


フローチャート



表面含浸工

表面含浸工の施工フロー（一般）



【注 記】
施工の際は、現地計測も行い寸法変更が必要な場合は監督員と協議の上、寸法変更を行うこと。

※塗布範囲は施工時状況確認の上、再調整すること。

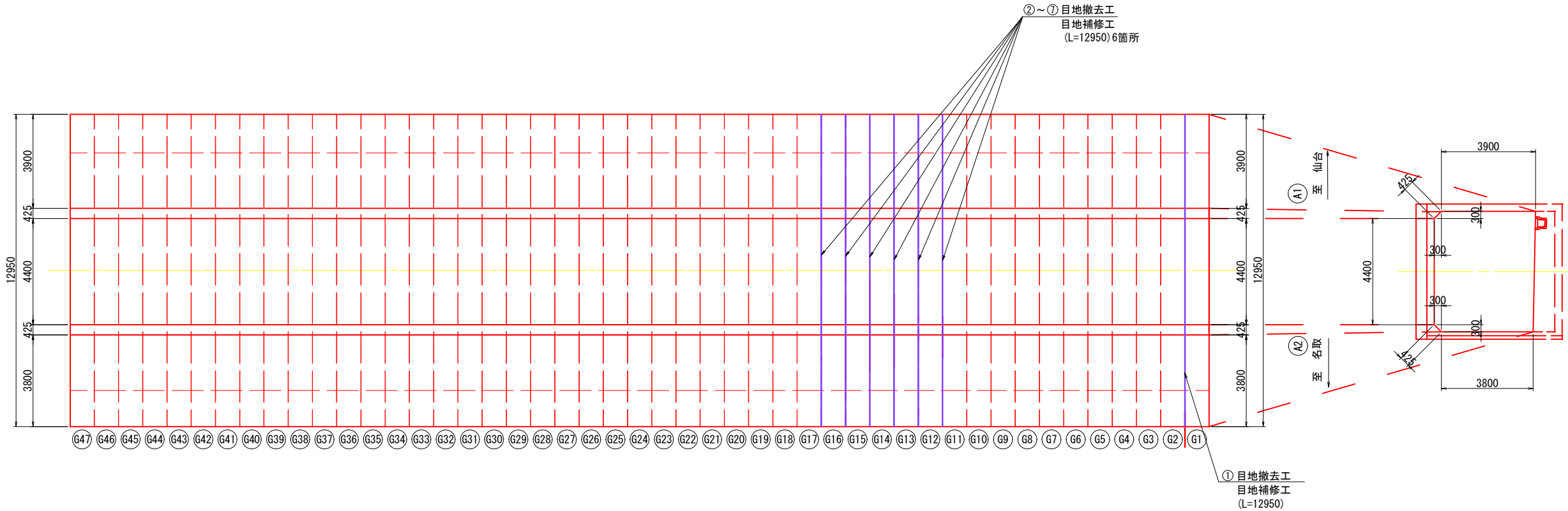
（ ）内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号				
路線名	市道 熊野堂柳生線			
箇所	名取市 高館熊野堂 地内			
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)			
図名	下部コンクリート補修図(その4)			
縮尺	図示	位置	-	
設計者	(株)地産建設企画	設計年度	令和7年度	
名取市	図番	縮尺	①	②

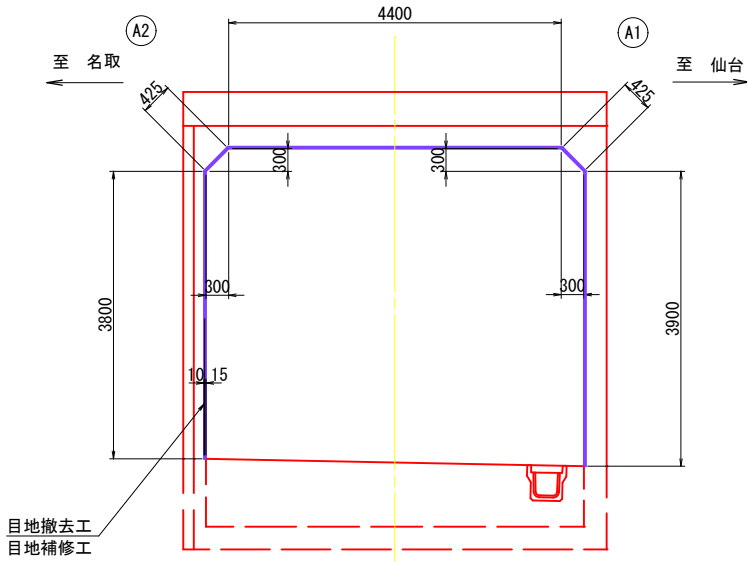
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

余方線立体橋 目地部補修図

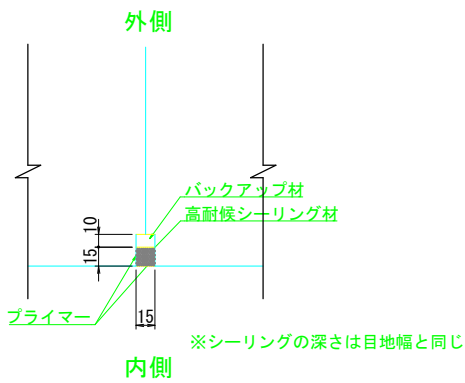
展開図 S=1:100
(S=1:200)



断面図 S=1:50
(S=1:100)



目地材充填工 S=1:3
(S=1:6)



数量表 (1橋梁あたり数量)			
名称	規格	単位	数量
バックアップ材		m	90.65
シール材	高耐候1成分形ポリウレタン系シーリング材	m	90.65

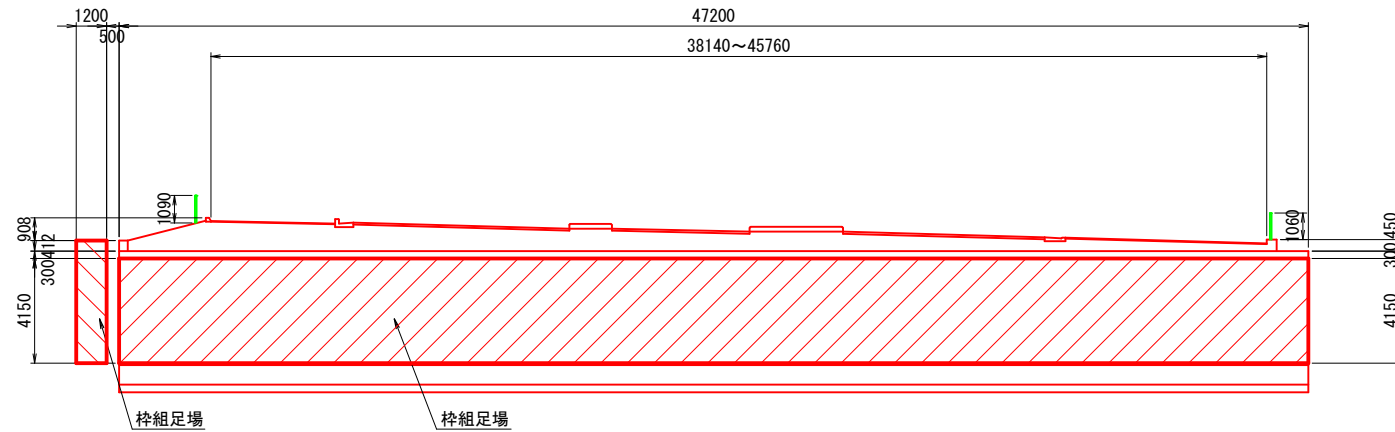
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

() 内は縮小版の縮尺を表す。

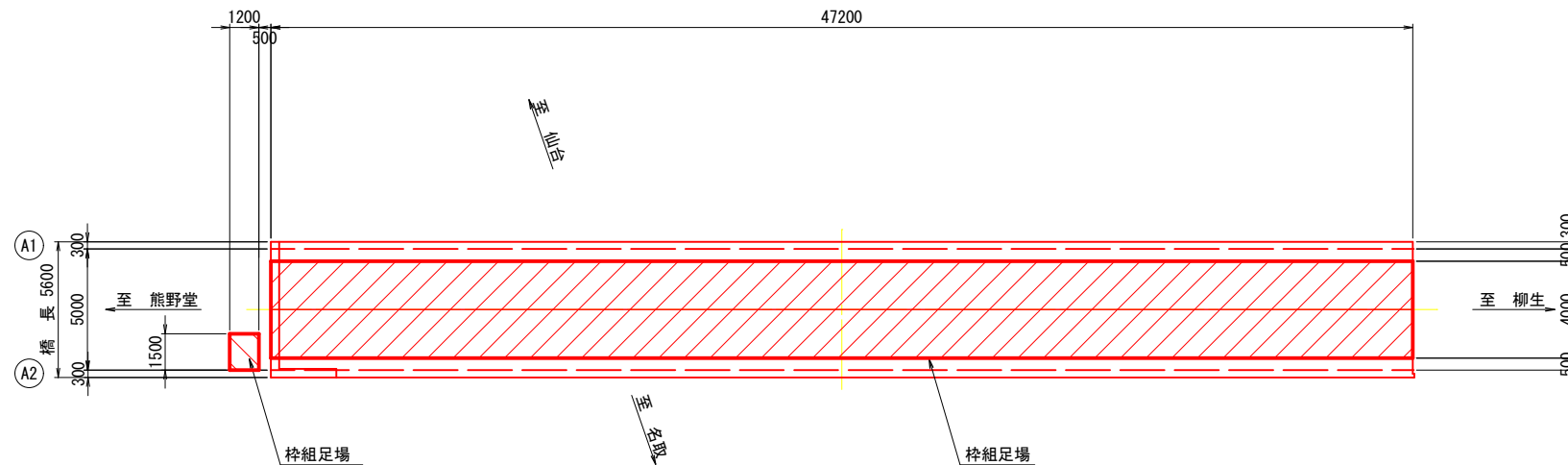
工事番号	
路線名	市道 熊野堂柳生線
箇所	名取市 高瀬町 熊野堂 地内
工事名	橋梁補修工事(余方線立体橋)
図名	目地部補修図
縮尺	図示
設計者	(株)地青建設企画
設計年度	令和7年度
名取市	図番

余方線立体橋 足場図(参考図)

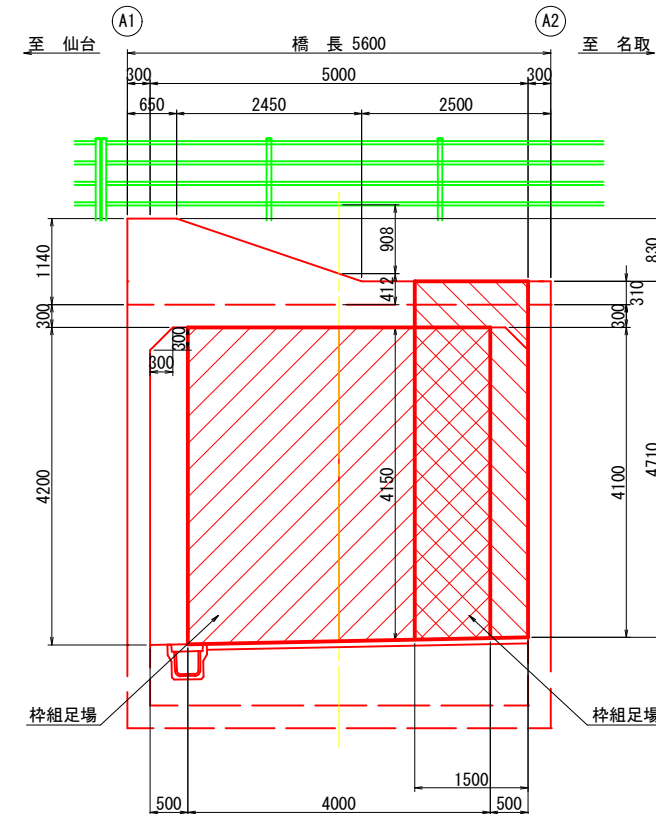
断面図 S=1:150
(S=1:300)



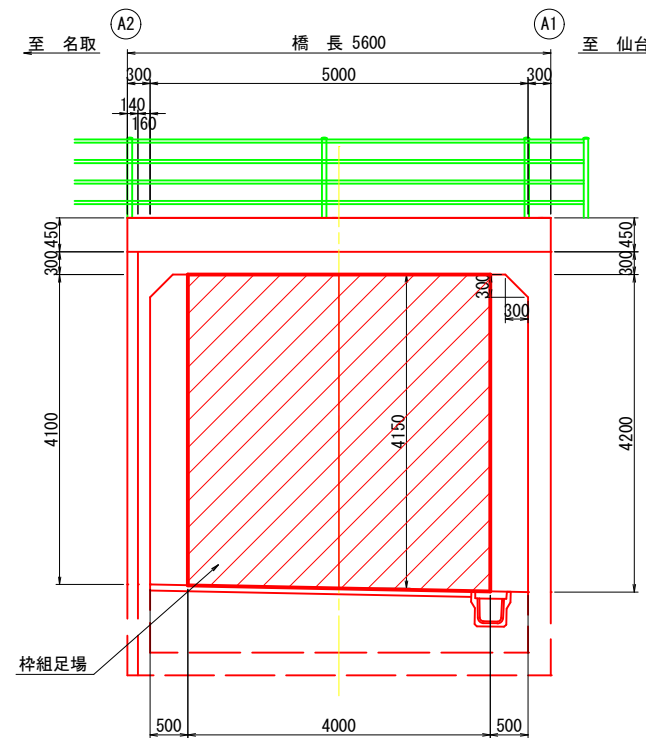
平面图 S=1:150
(S=1:300)



側面図 S=1:50
右側 (S=1:100)



左側



足場作業対象工種

補修項目	補修工法	補修箇所
上部エコンクリート補修工	断面修復工	主桁(頂板)
	ひびわれ補修工	主桁(頂板)
下部エコンクリート補修工	断面修復工	A1橋台、A2橋台
目地補修工	目地材充填工	主桁(頂板)、A1橋台、A2橋台

足場工数量表

位 置	数 量	備 考
梓組足場	203.0 掛m2	

()内は縮小版の縮尺を表す。

工事番号			
路線名	市道 熊野堂柳生線		
箇所	名取市 高直前柳生堂 地内		
工事名	橋梁補修工事 (余方繰立体構)		
図名	足場図(参考図)		
縮尺	図示	位置	-
設計者	(株)地青建設企画	設計年度	令和 7 年度
名取市	図番		

注記

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事にあたり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。